

# 陸上運動部部便り

2010年10月号

関東女子駅伝・京大戦・箱根駅伝予選会

## 目次

1	監督の言葉	1
2	関東女子駅伝	2
2.1	女子駅伝主将の言葉	2
2.2	出場選手の言葉	3
2.3	試合結果	4
3	京大戦	5
3.1	主将の言葉	5
3.2	女子主将の言葉	5
3.3	試合経過	5
3.4	試合結果	13
4	箱根駅伝予選会	15
4.1	長距離チーフの言葉	15
4.2	大学院駅伝主将の言葉	16
4.3	出場選手の言葉	17
4.4	試合結果	25
5	新主将・新女子主将・新主務・新長距離チーフの言葉	26
5.1	新主将の言葉	26
5.2	新女子主将の言葉	26
5.3	新主務の言葉	26
5.4	新長距離チーフの言葉	26
6	自己記録更新者一覧 2010.9.5～10.16	27
7	2010年度部内5傑 2010.10.16現在	27
8	主務より	29
8.1	応援OB・OG紹介	29
8.2	行事予定	30
8.3	学生幹事の交代	30
8.4	連絡先(慶弔等)	30
8.5	その他	30
9	編集担当より	31

## 1 監督の言葉

監督 藤田靖浩

秋シーズンの結果報告および今シーズンの振り返りと来期の展望(長文となりますが、結びに皆様方へのお願ひもがございますので、最後までご覧いただけますと幸いです)

～1. 秋シーズンの結果報告～

今期の対校戦は、関東大学女子駅伝対校選手権大会(9/26)、東京大学・京都大学対校陸上競技大会(10/9)、東京箱根間往復駅伝競走予選会(10/16)をもって、全日程が終了しました。

順番に結果を見てまいりますと、まず女子駅伝は6区(計30.6km)を2時間1分23秒で走り20位(全20チーム出場)。最下位ではあったものの、選手が揃うこと自体が久しぶりという状況で、1～3年生で完走できたことは来年に向けて良い経験となりました。

京大戦は、残念ながら男女とも2位。女子は僅差での悔しい結果。男子は不利と思われた4×100mRの勝利や、主将酒谷のハードル2種目制覇等で粘り、中盤まで互角に戦ったものの、中距離2種目、棒高跳での大敗を補えず、結果的に大差をつけられてしまいました。(悪天候のため全般的に記録は低調)

箱根駅伝予選会は、気温が高かったこともあり、各大学とも非常に苦しい展開となりました。東大は合計タイム11時間16分55秒で、昨年より順位を2つ上げて24位。各選手、後半失速したとは言え無難にまとめたものの、本選出場ラインの9位専修大学との差は57分と、まだまだ及びません。(学部生最高は宮野(3年)が194位(1時間4分44秒)、大学院は依田(D3)の61位(1時間1分57秒)が最高)

～2. 今シーズンの振り返り～

個人の結果では、早川(4年)の学部生としては5年ぶりとなる日本インカレ出場(10000mW)、四大戦での西田(4年)の100m、200m、走幅跳、4×100mRの四冠等の活躍があった一方、関東インカレ、七大戦でタイトルを獲得することはできませんでした。自己ベストを

更新する選手は多かったものの、大幅に記録を向上させた選手が少なかったように思います。

チームとしては、六大戦、関東インカレは振るわなかったものの、国公立戦、四大戦は上々の出来。七大戦以降はやや失速気味となり、残念ながら最終戦も勝利で飾ることは出来ませんでした。全般的に予想通りの力は発揮できたものの、いい意味でのフロックが少なく、主力選手の不調や、層の薄い種目の穴を埋めることが出来ませんでした。

～3. 来期に向けて～

#### (1) 課題と反省

現在の東大陸上部の最大の課題は地力不足(=実力通りの力を発揮しても他大に勝てない)であり、当たり前のことですが、これは日々の練習で克服するしかありません。技術の向上、練習の質の向上に励むのはもちろんのこと、それ以前の問題として、まだまだ練習量自体が不足している選手や、ピーキング、体調管理のまずさが目立つケースも見受けられます。

私自身、短距離、跳躍以外の練習を充分に見ることができなかつたこと等反省すべき点も多く、満足に選手の力を引き出してやるのが出来なかつたことが非常に悔やまれます。来期に向けて時間の許す限り研究、指導に励み、選手とOB・OGの皆様方に満足いただける結果を残すべく一生懸命努力してまいりたいと思います。

#### (2) 来期の展望

箱根駅伝予選会終了後、春日(専門100m、自己ベスト10"91)を主将とする新体制がスタートしました。前主将酒谷や西田らの卒業による穴も大きいですが、夏以降、400mHの上松(2年)、110mHの川原(1年)、走高跳の小松(1年)、長距離の梁瀬(1年)など、今まで対校戦で活躍出来ていなかった選手も徐々に力をつけてきており、冬季練習を経て充分にその穴は埋められると思います。

一方、中距離、フィールドの層が薄いという弱点は残り、人数の少なさをカバーする頑張りが求められますが、現在、シーズン終了後の期間をうまく利用して各選手が専門外の種目にも積極的に取り組んでいるようであり、思わぬ才能の開花にも期待したいところです。

～結びにかえて(私からのお願い)～

本年も、対校戦での応援、日々のご指導を通じ、温かい目で陸上部を見守っていただき誠にありがとうございました。大変恐縮ですが、私から2点、皆様方へお願いがございます。

一つ目は、対校戦に限らず気が向いた際は遠慮せず駒場グラウンドに足を運んでいただき、後輩たちにアドバイスをしていただきたいと思います。ご存じの通

り、コーチの皆様にご協力をいただいているとはいえ、他大と異なり専門の指導者がいない東大陸上部では、先輩方のアドバイスが非常に貴重なものとなります。ご多忙でなかなか時間が取れない方も多いとは存じますが、お子様の運動会の練習等、何かのついででも構いませんので遠慮せずグラウンドに足を運んでいただけますと幸いです。(久しぶりでちょっと気恥ずかしいという方は、事前に私にご連絡をいただければ、ご案内致します。)

E-mail:fujita-yasuhiro@live.jp

TEL:080-7005-4505

二つ目は、こちらは主に若手OB・OGの方へのお願いとなりますが、OB会費納入ご協力をお願いします。(現役部員のOB訪問がおそろかになっているというご指摘も当然あるかと思いますが、)年々会費の納入率が低下しており、用器具の購入や現役部員への補助等を充分賄うには財政が厳しい状況になってきております。卒業以降延々と払い続けるのはなかなかの負担かもしれませんが、世代を超えた相互扶助として、ご自身が学生の際に先輩方からいただいた恩恵を少しでも後輩たちに還元していただければ幸いです。

以上、長くなりましたが最後までお読みいただきありがとうございます。来年も、今までと変わらぬ、ご指導、ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

## 2 関東女子駅伝

### 2.1 女子駅伝主将の言葉

女子駅伝主将 鈴木恵美里

駅伝主将を務めさせていただきました中距離3年鈴木恵美里です。9/26(日)に千葉県印西市千葉ニュータウン周回コースにて、関東大学女子駅伝が行われ、11年ぶりに東大女子チームとして出場させていただきました。現在、中距離女子は、800mを専門とする選手3名、3000mを専門とする選手4名の計7名で活動しております。

本大会は最短区間が3.3km、最長区間が7.8kmであったため、9月には走りこみを行い、全員が確実に持久力をつけてきていました。全員で襷をつなぐことを目標にして、各自が自信を持ってスタートラインに立つことができました。しかし、結果は2時間01分23秒(20位/20校)となってしまいました。原因としては実戦向きの練習が不足していたこと、直前にけが人がでたことなどが挙げられます。今年のチームは全員が3年生以下なので、今回の反省を来年の女子駅伝に活かしていきたい

と思います。応援してくださった方々、本当にありがとうございました。

## 2.2 出場選手の言葉

### 浜松 由莉 (2年)

1区 (4.6km)17分28秒 [20位/20人中]

1区を走らせていただきました、2年生の浜松由莉です。記録は区間20/20位ということで、芳しいものではありませんでした。鎌倉女子にラストで競り負けてしまい、非常に悔いが残る内容でした。今年は1、2年生中心のチームということで、また一年、一丸となって精進していきたいと思います。来年度は、よい結果報告ができるようにいたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 杉本 南 (1年)

2区 (4.5km)16分25秒 [18位/20人中]

2年半ぶりの駅伝とあって、とても楽しみにしていましたが、9月上旬の秋合宿のあと鷲足炎になってしまい、大会前の2週間はほとんどポイント練習に参加できない状態になってしまいました。しかし、全カレ補助員等で練習量が減ったことがかえて幸いしてケアに徹底することができ、また程度も軽かったため、試合に向けて調子を合わせていくことができました。

そして試合当日。足の不安はまだ少しありましたが、1区の浜松さんが鎌倉女子の人と争って走ってくるのが見えたらそんな不安など消し飛んでしまい、タスキを受け取った後は早くこの襷を次の区間に届けようと夢中でした。最初の1000mはオーバーペースかもしれないと思いながら鎌倉女子について行きました。その後少し離れてしまいましたがここで突き放されてチームのみんなの足を引っ張るわけにはいかないと、自分のペースで距離を保ちつつ走りました。2000mを過ぎたあたりから前を走る鎌倉女子が徐々に落ち始めたため、攻めるなら今だと思って抜かしました。もうひとつ前の大学が前方に見えましたが、なかなかその姿が大きくなりませんでした。残りの2000m弱、呼吸が苦しくなってきたとき沿道に水色のジャージが途切れることなく並んでいて、声をかけてくれるのが本当に力になりました。あの応援がなかったら、後半きっとたれていたと思います。2区は起伏が少なくまっすぐなとても走りやすいコースだったのも原因でしょうが、あんなに調子よく走れたのは部のみなさんのおかげです。しかし自分がいくら調子よく走れたといっても、他大の選手のタイムには遠く及

びませんでした。チームとしても、順位は最下位、温情をかけてもらってやっと襷につながったという悔しい結果です。今回の大会では他大との力の差に圧倒されました。来年は少しでも勝負させてもらいたい、その勝負に加わるくらいの力をつけたいです。人数のそろわない大学も多い中、次があるというのはとても幸せなことです。今回自分は出られることでまず満足してしまいましたが、それではだめなのだと痛感しました。来年に向け、これから練習をしっかりと積んでいきたいと思いません。

最後に、遠いところに朝早くから応援・サポートに来てくださった皆様、練習メニューの相談に何度ものってくださった麻衣子さん、本当にありがとうございました。

### 増田 有里子 (1年)

3区 (3.3km)13分08秒 [19位/20人中]

目標は3'50/kmでしたが、長距離に不慣れであったため、そもそも4'00/kmですら3000mを走れないのに、と不安でした。でも駅伝は一人ではない、みんながんばっているんだ、ということが何よりも心の支えになりました。襷を受け取ると、入りの1kmはしっかりスピードを出してリズムにのることを意識し、2kmまではリラックスしてそのスピードを維持することにつとめました。しかし2km過ぎたあたりからきつくなり、このまま潰れてしまうのかと何回も思いました。でもその度に水色のジャージと旗と声援に励まされ、もう少しがんばれる、と思い直しました。とはいってもこの辺りでペースが落ちていたのは明らかなので、体力的にも精神的にも自分の弱いところが丸出しになってしまいました。ラストの直線は試走のときよりも長く感じられ、サポートもあまりかけられずに終わってしまいました。

結果としては13'08(3'59/km)で目標には及びませんでしたが、3000mの練習ベストが12'14(4'05/km)であることを考えれば、3000m通過は単純計算で11'57なのできっと自己ベストのはずです。11分台で3000mを走れたことはうれしいです。でも、前を走る千葉大には差を広げられ、大きく差がついていた鎌倉女子大には詰め寄せられました。他大学には相手にもされませんでした。自分の力の無さを実感しました。それと同時に、他大学の選手の精神面、体力面も含めた強さを改めて実感しました。

まだまだ自分は甘いので、今回戦った選手たちのように、私も強くなっていきたいと思っています。長い距離にも負けない精神力と持久力を培っていきます。応援・サ

ポートなど、どうもありがとうございました。

#### 鈴木 恵美里 (3年)

4区 (5.8km)23分48秒 [20位/20人中]

1kmあたり3'50を目標にしていたのですが、力及びませんでした。原因としては9月に入ってから調子がよく十分に練習を積むことができていたのですが、駅伝の1週間前になって貧血になるという調整の失敗をしてしまったことが挙げられます。レース展開としては、はじめの2kmは前を走る選手との差が40秒で、選手の姿を確認できたこともあり、予定通りのペースでいきましたが、曲がり角の多いコースに入り前が見えなくなった際に無意識にペースダウンしてしまい、ラスト1kmで切り替えようとしたものの足が動かなくなってしまったという感じでした。当日は部の皆さんをはじめOB・OGの方々などたくさんの方々に応援していただいたにもかかわらず、このような結果になり実力不足を実感しました。来年の女子駅伝に向けて課題を明確にして、今後の練習に取り組んでいこうと思います。応援、サポートありがとうございました。

#### 立岡 美夏子 (2年)

5区 (4.6km)19分32秒 [20位/20人中]

関東女子駅伝という大きな舞台で走ることができたことに、本当に感謝しています。良い結果を出したいと思い練習してきたつもりでしたが、走りこみが足りず、十分に調子をあげられないまま、当日を迎えることになってしまいました。大きく足を引っ張ることになり、大変申し訳なく思っています。走っている最中は、練習に打ち込む仲間の姿を思い出し、ただただ禱をつなぎたいという気持ちでした。チームに貢献できない自分の無力さ、悔しさがこみ上げてきて、来年は自分がチームを引っ張るような存在として走りたい、と気持ちを新たにしました。

結果を出せる選手になるために、冬練では質量ともに高い練習を積み、次シーズンにつなげていきます。多くの方にたくさんサポートをいただきました。本当にありがとうございました。

#### 杉浦 奈美 (2年)

6区 (7.8km)31分02秒 [19位/20人中]

最長区間6区7.8kmを走らせていただきました。普段のトラックレースの倍を走るということで、この区間を走らせていただけることをうれしく思った反面、不安も感じましたが多くの方にアドバイスをいただき、本番

に合わせることができました。レースは常に前方の選手を追いかける形で終始しました。差がなかなか詰まらず、最後まで簡単に逃げ切りを許してしまったこと、後半に失速し目標としていたタイムに及ばなかったことなど反省点は多々ありますが、メンバーが揃いあらゆる手続きをしていただいてこの駅伝に出場できたことを本当に感謝したいと思います。また、沿道の絶え間ない応援に背中を押され、最後まで気持ちは切らさずに走りきることができました。今回はそのような素晴らしいサポートにも関わらず結果は満足できないものになってしまったのですが、来年また出場させていただけるのであれば次は上位校と勝負しに行くのだという気概を持って走りたいと思います。

遠い中応援して下さいました皆さん、早く準備・手続き等をして下さった渉外の方々、サポートしてくれたマネージャーさん、本当にありがとうございました。

## 2.3 試合結果

### 第16回関東大学女子駅伝対校選手権大会

於 印西市千葉ニュータウン周回コース

(6区間 30.6km)(H22.9.26)

総合順位		
順位	大学名	タイム
1	白鷗大学	1時間40分30秒
2	日本体育大学	1時間41分22秒
3	城西大学A	1時間41分37秒
4	玉川大学	1時間42分00秒
5	東京農業大学A	1時間42分12秒
6	順天堂大学	1時間42分40秒
7	城西国際大学A	1時間42分47秒
8	日本大学	1時間44分27秒
20	東京大学	2時間01分23秒

区間賞			
区間	大学	名前	タイム
1	中大	野村友香里	15分02秒
2	筑波大	上野泰加	14分12秒
3	日体大	田辺彩	10分58秒
4	日体大	須黒なつ美	18分28秒

- 5 白鷗大 大江茉莉香 15分32秒
- 6 城西国大A 阿部有香里 25分43秒

個人順位(総合記録)[区間記録]			
区間	順位	名前	タイム
東京大学			
1	(20)[20]	浜松由莉	17分28秒
2	(19)[18]	杉本南	16分25秒
3	(19)[19]	増田有里子	13分08秒
4	(20)[20]	鈴木恵美里	23分48秒
5	(20)[20]	立岡美夏子	19分32秒
6	(20)[19]	杉浦奈美	31分02秒

### 3 京大戦

#### 3.1 主将の言葉

主将 酒谷彰一

過日行われました京大戦、男子は35点差での完敗でした。

東大が圧倒したのは僅かにハードル2種目と競歩・走高跳のみ、その他は中長距離3種目で25点のリードを許すなど、やりたい放題にやられました。今回の敗因は、主力選手に直前のケガ・病気が頻発した上、それを補うべき選手のレベルの底上げができていなかったことにあると考えております。

最後の最後にこのようなふがない結果を残してしまいましたことは大変悔しく、また大雨の中ご足労頂いた方々を初めとするOB・OGの皆様方の期待に応えることができず申し訳なく思っております。

何はともあれ、この試合をもちまして私の主将としての任期は終了致しました。至らぬ点が多々ありましたが、様々な人に支えられ大変幸せな一年間を送らせて頂き、感謝の気持ちで一杯です。春日慶輝新主将率いる東京大学陸上運動部のこれからの活躍を祈念し、筆を置きたいと思っております。どうもありがとうございました。

#### 3.2 女子主将の言葉

女子主将 高山花子

雨の中で行われた京大戦は、31-35で敗れるという非常に悔しい結果に終わりました。事前ランキングでは両校譲らぬ同点予想が弾き出されており、勝つためにはいずれかのランキングを覆さなければならず、また、覆されてもならない状況でした。試合前から、選手達の士気

は非常に高まっており、いつにない後輩達の集中力を感じながら当日を迎えました。悪天候ではありましたが、誰一人勝ちを信じて諦めず、全力で戦いました。怪我から嘘のような復帰を果たした者もいました。雨をもともせず自己ベストを出した者もいました。実力は存分に発揮出来たと思います。それでもなお及ばなかったという事実に、自分たちの力の無さと大きな悔しさを感じました。

私はこれで引退となり、新しく3年の鈴木が女子主将となります。彼女の下で、後輩達には負けた悔しさを決して忘れる事無く、精進して行ってほしいと思います。今後とも、女子チームへのご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願い致します。

この1年間、女子主将として自分がどれだけのことを果たせただろうか、と自問すると答えは出ないのですが、少なくとも後輩達は皆頼もしく成長しました。それだけは誇りです。数えきれないほど多くの方々の支えで1年間女子主将を務める事ができ、また4年間競技に取り組むことが出来ました。言葉に言い尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

#### 3.3 試合経過

##### トラック

##### 10:15 男子100m 決勝

2レーンに菊池(2年)、4レーンに春日(3年)、6レーンに西田(4年)の出場。京大が対校選手全員を10秒台で揃えてくる上、西田と春日が最近腰を痛めていたこともあり、厳しい戦いが予想される。

弱い雨が降る中号砲が鳴ると、まずはきれいに横一線である。30m付近から西田を含む優勝候補たちが徐々に前に出始め、菊池は逆に少し遅れ気味になる。春日も中盤の時点では一步遅れるが、そこからは上位陣に必死に食らいつく。得意の後半で伸びが期待されるエースの西田であったが、今日はやはり調子が悪いのか後半に粘ることができず、スピードを落としていく。段々と京大の2人に差を付けられ、そのまま挽回することはできずにゴールした。西田は11"01の3位、春日は11"08の4位、菊池は11"35の6位で、この時の風は+1.3mであった。

エースの西田が10秒台すら出せず、1位や2位に約0"1の差をつけられるという、非常

に残念な結果となった。また、京大のチームが比較的ハイレベルであったとはいえ、3番手の菊池も5位に0"2の差をつけられるなど、短距離チーム全体の實力不足が目立った。まだ10秒台の出していない1、2年短距離チームの躍進が無ければ来年の勝利は見込めないだろう。

#### 10:20 女子100m 決勝

3レーンに鈴木(2年)、4レーンに久保木(2年)の出場。前評判では分が悪いものの、壮行会で優勝宣言をした久保木が宣言通りの順位でゴールできるか、注目される。

スタートすると、鈴木がやや遅れるが、久保木はいいスタートからぐんぐんと加速してスピードに乗る。東大の応援団が陣取る60m付近では、ライバルの優勝候補、釜谷(1年)にリードし、1番手であった。また、スタートでやや遅れを取っていた鈴木も中盤以降は安定したスピードで競り合う。久保木はこのまま1位でゴールするかと思われたが、地力で勝る釜谷がラスト20mで猛烈な追い上げを見せ、久保木とほぼ同時にゴールした。それから少し遅れて、鈴木も京大の加奈山(2年)と僅差でゴール。「まだ来ない、まだ来ないと思ったら、逆に最後は力んでしまった」と振り返る久保木は、惜しくも1位と0"01差で13"23の2位、鈴木は競り勝って13"33の3位だった。この時の風は+2.0mだった。

久保木はシーズンベストで鈴木は自己ベストと悪くないものだったが、それよりは悔しさの方が大きいようだ。それぞれこの試合で見つかった課題もあり、今回の悔しさをバネに来シーズンは両選手とも12秒台を出して大いに活躍することを期待する。

#### 10:30 男子1500m 決勝

渡邊(4年)、池田(3年)、大内田(2年)の出場。直前に体調を崩した渡邊・池田、怪我に不安が残り十分練習が積めていない大内田の3選手には、冷たい雨のなか、厳しいレースとなることが予想された。

レースは終始京大勢が引っ張る形になった。1週目は集団で展開。渡邊は2番手、池田は中盤、大内田は後方につく。400mの通過は66"だったものの、京大勢が徐々にペースを上げる。渡邊はスタートこそ良い位置をとっていた

ものの、普段より明らかに動きが悪く、600m地点あたりで一気に集団から離されてしまう。大内田も徐々に集団から離され粘りは見せるものの、800mの通過地点ですでに大きな差が開いてしまった。池田が辛うじて京大勢に食らいついて行ったが、1000m過ぎで余裕を残していた京大3選手がスパートをかけると対応できず、あつという間に離されてしまい、そのまま4'14"96の4位でゴールイン。大内田も勝負に絡めないままフィニッシュ。4'19"64の5位であった。渡邊は一度崩れた走りを立て直すことができないまま4'38"21の6位でゴール。

今回は3選手とも万全の状態に調整することができず、京大とは全く勝負にならなかった。対校でしっかり走れる選手を揃えられなかったことを、中距離パート全体の問題として厳しく受け止めなければならない。

#### 10:45 男子110mH 決勝

3レーンに酒谷(4年)、5レーンに増本(4年)、7レーンに江間(4年)の出場。もちろん狙うは1、2、3位の独占。有終の美を飾れるか。

号砲が鳴り、1台目は全員が横一線。中盤に入る前に集団から抜け出したのは酒谷。続く増本と4レーンの前田(京大4年)が2位争いを演じるが、増本がスムーズなハードリングで前田を引き離す。一方の江間は前田に差を付けられ、逆に格下の6レーン大橋(京大3年)に迫られる苦しい展開である。酒谷と増本はその後も危なげなくハードルを越えていき、酒谷が15"45で1位、増本が15"73で2位となった。江間は中盤以降、大橋に抜かされ追う展開となったが、終盤に差し掛かり僅かに前に出たか。そのとき、前を行く京大の前田が9台目のハードリングに失敗し大きく減速する。江間は前田に追いつくと必死の形相で走る。両者が10台目のハードルを越える。江間が猛スパートを見せるが、横を見た前田が江間のスパートに気づき慌てて加速。結局あと一歩及ばず、16"28の4位に終わった。風は+0.8m。

非常に悔しいレースであった。しかし、3人とも全力を尽くしたことは間違いないだろう。4年生がごっそり抜け来年以降の対校戦が心

配だが、それは下級生自身もわかっていること。精進してほしい。

#### 11:50 男子 400m 決勝

2レーンに上松(2年)、4レーンに小松(3年)、6レーンに大澤(2年)の出場。ここまででトラック競技は京大と同点だけに勝ち越しを狙いたいところである。

雨が降りしきる中、号砲が鳴り一斉にスタート。まず大澤が前半から積極的に飛ばし、150m付近で前の選手をとらえる。ホームストレートに入ったところで京大の選手に並ばれるが、ラストの粘りを見せ引き離し、50"53の1位でフィニッシュした。上松はじわじわスピードを上げ少しずつ前を詰めていったが、最後の直線で体が動かずストライドが小さくなり、京大の選手に1人抜かされ51"45の4位でゴール。小松は前半押さえて入ったが、そのまま後半もスピードが上らず離されていき、53"25の6位であった。

結果、東大10点京大11点となり、僅差ではあるが京大に勝ち越されてしまった。しかし、雨で気温が低いという悪いコンディションながら、京大とほぼ互角に渡り合いよく健闘したレースであった。

#### 11:55 女子 800m 決勝

浜松(2年)、増田(1年)の出場。天候は雨で気温も低い。両選手ともにベストを更新するほどのタイムを出さなければ勝ち越しは難しいと予想されていただけにこの天候は痛手であった。

スタートすると浜松は2番手、増田は4番手につく。浜松は京大の1番手である岩橋について行くが、200mを通過した辺りから離される。増田は前の選手との差を縮めようとするもついていけずに逆に開いてしまう。400m通過は浜松が68"、増田が74"。その後順位は変わらず、両選手はひたすら前の京大の選手を追う展開に。ラスト100m付近で浜松がスパートをかけるも岩橋に追いつかず、2'27"53の2位でフィニッシュ。増田もラストスパートをかけ、京大の福谷に追いつく勢いを見せたが猛攻叶わず2'34"58の4位でフィニッシュし、惜敗を喫した。

今回はレース開始直後から各選手間の間隔は開いており、実力の差を見せ付けられた結

果となった。しかしこの結果から自らの課題を見出だしてそれを克服し、更なる成長を遂げてほしい。

#### 12:15 男子 4 × 100mR 決勝

4レーンに春日(3年)-西田(4年)-真木(2年)-増本(4年)の走順で出場。100mでは奇しくも京大にリードを許してしまったが、4継では走力でやや劣るところをバトンパスの正確さでカバーし、粘りの走りで京大に勝利することができるか。

号砲が鳴るも、雨の中集中を保てなかったか、春日はスタートでやや出遅れてしまう。しかし、順調なコーナリングで京大とほぼ同時にバトンパスし、2走のエース西田へバトンパス。西田は午前の試合を感じさせない、いつも通りの軽やかな走りややリードを奪い、3走の真木へスムーズにバトンをつないだ。真木は得意のコーナリングで差を縮められることなく、そのまま4走の増本にバトンパス。増本は京大の選手が背後から迫っている中、固くならず最後まで伸びのある走りで逃げ切り、見事1位でフィニッシュ。記録は43"04であった。

大雨の中、バトンパスで大きなミスがなかったのが最大の勝因となったと言える。来年は4年の西田と増本が抜けることになるが、1、2年の豊富な人材から彼らが抜けた分を埋められるような選手が現れるのを期待したい。

#### 12:25 男子 5000mW 決勝

早川(4年)、瀧川(2年)の出場。東大の2人は持ちタイムで京大の選手を大きく上回っており、この種目でしっかり1位、2位を確保することが期待されていた。雨が降っており、肌寒さを感じる中でレースはスタートした。

レース直後、OPの阪大の選手が飛び出したが、早川は2周目には先頭に立ち、瀧川も京大の選手の前に出て、早くもワンツー体制を作った。早川は3000mまでは4'20"を切るペースで歩き、後続との差を広げていく。瀧川も4'25"前後でイーブンペースを保ち、京大に大差をつけた。このあたりで順位に加えてタイムとの戦いになり、早川は4000m付近で一度ペースダウンしてしまうが、ラストパートで粘り、21'37"02の1位でゴールした。

瀧川は後半もペースを落とすことなくイーブンペースで歩き続け、早川から100m以上離されることもなく、ラストでも力を出し切り21'55"73の自己ベストを出して2位に入った。

東大は戦前の予想通りに1位、2位を確保し、京大に4点差をつけた。早川は自己ベスト更新こそならなかったものの、レースをうまくまとめて優勝し、貫録を見せた。1週間後に迫っている箱根駅伝予選会でも快走を期待したい。瀧川は自己ベストを大きく更新し、21分台に突入した。4年生が抜けて、今後は競歩パートの軸になる瀧川には、今まで以上の活躍を見せ、後輩を引っ張っていくことを期待したい。

#### 13:05 女子400m 決勝

3レーンに浜松(2年)、5レーンに鈴木(1年)の出場。京大の選手とは持ちタイムにかなり差があるが悪いコンディションに乗じて何とか食らい付いていきたいところである。

号砲と同時にスタート。東大両選手ともまずまずのスタートを切り、加速していく。しかし、バックストレートに入ると差が少しずつ広がり始め、鈴木が置いていかれる。浜松は離されまいと何とか付いていくが、第3コーナー付近からだんだんと離されていく。ホームストレートに入るとラストスパートの差が歴然とし、結局ゴール時には京大の選手に20mほど離されて浜松は1'06"30の3位、鈴木は1'07"71の4位でフィニッシュした。

結果、東大3点京大7点となり、惨敗であった。元々走力に圧倒的な差があり、勝負に持ち込めなかった。冬季練習では基礎的な走力・体力を向上させることが必須となるだろう。

#### 13:10 男子800m 決勝

近藤(4年)、木内(4年)、原(1年)の出場。木内と原は初の対校レースである。対する京大は持ちタイムが全員1分台という強者ぞろいで苦戦が予想されるが、1分台まであと1歩に迫る近藤を中心に京大にくらいついていてもらいたい。

午後になって激しさを増す雨の中、号砲とともにスタートした6人は、集団でまとまってバックストレートを走る。木内、原は2~3番手、近藤は後方につける。ホームストレートに入ったところで近藤が外側から前が出る。

400mの通過は近藤が60"、木内と原が61"。500m過ぎで集団は崩れはじめ、京大の3人と近藤が前へ、木内と原がやや離れて続く。600m地点では先頭集団は京大の大川と水元にしぼられ、それを追うように京大の宿利と近藤が続く。ラスト150mから近藤は懸命のスパートをし、宿利との3位争いを繰り広げるが、惜しくも及ばず2'01"42の4位でフィニッシュ。続いて木内、原もスパートをかけ、それぞれ2'05"45の5位、2'06"65の6位でフィニッシュ。

上位を全て京大に占められてしまったのは残念である。まだ1年の原には今後の活躍を期待したい。また800mの対校を支えてきた4年の引退に伴い、3年以下のより一層の成長が求められる。

#### 13:30 男子200m 決勝

2レーンに真木(2年)、4レーンに西田(4年)、6レーンに春日(3年)の出場。午前中に行われた100mでは京大に負け越しており非常に厳しい戦いが予想されていたが、点差をこれ以上広げられたくない状況だ。また風は悪くはないものの、気温が非常に低く、厳しいコンディションであった。

東大の3選手はスタートではまずまずの無難な立ち上がりを見せる。直線コースに差し掛かったあたりで京大の選手1人が飛び出し、他の選手はほぼ横一線に並ぶ接戦となる。しかし、東大の3人がそこから抜け出せない。結局5人が僅差のままゴールする形となった。真木は22"81で3位、西田と春日はさすがに疲れが見えたか、西田が22"86で4位、春日が22"97で6位であった。このときの風は+0.6であった。

100mとともに、1位、2位を京大の選手に奪われ、ショートスプリント全体の弱さが露呈した結果となった。西田以外は来年もあるので、冬季練習にしっかりと取り組んでの来年の雪辱を期待したい。

#### 14:05 男子400mH 決勝

3レーンに赤木(4年)、5レーンに酒谷(4年)、7レーンに上松(2年)の出場。凍えるような寒さと風雨が続く。この寒さが、選手にどのような影響を与えるか。

スタートは3人並んでの展開。酒谷は流石

のハードリング、その切れ味で前半から他の選手を圧倒する。怪我で満身創痍の上松は、前半からとばして入り、逃げ切る戦法をとる。ハードリングも申し分なく、先頭を走る酒谷に食らいつく。赤木は、前半落ち着いて入り、周りを伺う。酒谷は後半も周りを寄せ付けることなく、55'64で堂々1位フィニッシュ、ガッツポーズを見せた。上松は最後まで内側の京大の選手と競るが、ラストのハードルの後に惜しくも刺され、56'12の3位。赤木はラストのコーナーで外側を見ながら走るが、前の京大の選手には追いつかない。そのまま4位でゴール。タイムは58'06であった。

このレースで東大は13点を獲得した。酒谷はこのコンディションの中で自己ベストをマークし、経験の差を見せつけた。上松は久々の400mHを無事走りきった。今後に大きな期待がかかる。赤木は最後の最後に怪我で苦しんだが、最低限の仕事を果たしたと言えよう。

#### 14:20 女子3000m 決勝

杉浦(2年)、鈴木恵(3年)の出場。強く降る雨の中、4種目にエントリーした岩橋と新人の田中に勝負を挑む。

スタート直後から、杉浦が先頭に立ち積極的な走りを見せる。鈴木は4番手につけた。気持ちで負けない走りが伝わってくる。400mを過ぎると杉浦と岩橋が並走する形になるが、杉浦は半歩前に出て強い姿勢を見せる。しかし、そのうちに岩橋がペースを上げて先頭に立ち、1000mを3'43"で通過。鈴木は走りが大きくなり始め、ピッチやリズムが乱れ始める。集団は京大2名と杉浦の3人に絞られた。レースは岩橋が引っ張り、杉浦が追う展開に。1800mを過ぎたあたりから杉浦も離れ始め、京大2選手はスパートをかける。この時点で、杉浦は先頭と2"差、鈴木は19"差である。ラスト1周になると杉浦は腕の振りをもう一度意識し、力を振り絞る。鈴木は完全に離されているものの、フォームを整えて前を追う。結果、杉浦は11'28"22で3位、鈴木は11'47"47で4位でのゴール。

京大勢に負け越した結果ではあるが、2人共に気持ちで負けることなく積極的なレース展開を見せてくれた。今後につながる試合になったことだろう。

#### 14:40 男子5000m 決勝

東(3年)、宮野(3年)、山田(3年)の出場。少々雨が強かったものの気温は20度と涼しく、5000mにはまずまずのコンディションでのレースとなった。

レースは1000mを3'00"のペースで進む。スタート後2000mまでは選手6名が一団となって走っていたが、2300m付近で山田が離れ始め、続いて宮野も2600mを通過したところで集団から離されてしまう。それを見た山田はペースを上げ、宮野に追いついて2人で粘るが、再び集団につくことはできず、3000mを過ぎた時点で京大勢3人についているのは東だけとなってしまった。その後は京大の小山、山田唯が抜けだしてそのままゴール。東は京大の柿本の後ろについており、あわやスコンク負けかと思われたが、ラストスパートを決めて柿本を抜き、15'02"49の3位でゴールした。山田は15'24"55の5位、そこから少し遅れて宮野が15'35"16の6位であった。

今回のレースは京大が速いペースを作り、箱根予選会に向けた走り込みでスピードに不安を抱えた東大勢にとっては厳しい展開となった。さらに宮野は教育実習による練習不足にも泣いた。しかし、今シーズン苦しんでいた山田が徐々に復調の兆しを見せており、夏の暑さが終わって東も調子を取り戻している。今後は三選手ともに予選会での活躍、冬期鍛錬でのさらなるレベルアップが期待される。

#### 15:05 女子4×100mR 決勝

4レーンに鈴木(2年)-久保木(2年)-武田(1年)-高山(4年)の走順で出場。100mでは京大と互角の戦いを演じてみせた東大はこの4継で京大に勝利し、僅差が予想される対校戦での優勝につなげることができるか。繰り返し練習してきたバトンパスが本番でも出せるかが勝利へのカギと言える。

号砲が鳴り、鈴木は得意のスタートで序盤からややリードを奪い、そのまま正確なバトンパスで久保木につないだ。久保木はエースらしい走りで順調にリードを広げ、3走の武田へバトンをつないだ。ここでも大きなミスは見られず、武田は力強い走りでやや差を締められるも逃げ切り、4走の高山にバトンパス。高山は懸命の走りで京大から逃げるも中

盤辺りで追いつかれ、終盤のラストスパートで僅かに京大の選手に及ばずかわされ、2位でフィニッシュ。記録は52'54であった。

惜しくも京大に敗れ、この試合で引退となる高山にとっては悔しいレースとなってしまったが、残りの3人はまだ1、2年であり、これから期待ができるチームである。来年の京大戦では必ず今年の雪辱を果たしてくれるだろう。

#### 15:15 男子4×400mR 決勝

3レーンに真木(2年)-大澤(2年)-増本(4年)-定金(4年)の走順で出場。怪我に苦しんでいた定金は久しぶりの出場だ。京大は内側の2レーン。少し弱くなったが、まだ冷たい雨である。

京大が用意の合図で止まれず、再スタートまで間が空く。1走真木は、スタートからすぐ京大を引き離す。後半少し距離を縮められるが確実にバトンパス。2走の大澤は少し差を詰められるが、リードしたまま増本に繋ぐ。増本は、バックストレートでじわじわと詰め寄せられ第4コーナーで抜かされるが、最後の直線で抜き返し4年生の意地を見せた。しかし、バトンパスで手間取ってしまい再び逆転を許す。アンカーの定金は、第2コーナーで抜き返し、このまま先着するかと思われたが、京大の大橋に残り20mで抜かれてしまう。結局、東大は京大に0'4の差をつけられ、3'23'98の2位でゴール。4年生の引退試合を勝利で飾ることはできなかった。

序盤から東大優勢のレースだっただけに、非常に悔しい結果となってしまった。4年生が抜けて、400mを走れる選手を4人以上揃えるのは大変であるが、冬季練習をしっかりと積み、マイルのメンバーの座を奪い合うくらいのレベルにまで達してほしいものである。

## フィールド

#### 10:15 男子走高跳 決勝

地子(5年)、坂本(4年)、小松(1年)の出場。地子、坂本にとっては引退試合、小松にとっては初の対校戦ということで、それぞれが特別な思いをもって臨んだ。練習跳躍のときには止みかけてた雨も次第に強くなり試合は荒れることが予想された。

最近スランプ気味な地子と、初の対校戦に緊張している小松は1m50から試技を開始。両者順調に進み高さは1m70、小松は1本目失敗するも2本目に余裕をもって成功し自己ベストを更新した。一方、地子は最終局面の鋭さという持ち味が発揮できず、3本とも高さが足りずここで競技終了。続く1m75、勢いにのる小松とここまでパスした坂本が試技に移る。坂本はこの高さを1発で成功。一方の小松はここまでの疲れを感じさせないよい跳躍を見せるが、頂点が合わず3本失敗し競技終了。この時点で優勝が決まった坂本はバーを1m85に上げるが助走が安定しないまま3本失敗した。京大が大きく崩れたため、坂本が1位、小松が3位、地子が4位となり予想外の得点を獲得した。

地子、坂本と対校選手が引退し大きな穴となると思われた男子走高跳だが、1年小松という人材が現れたのは喜ばしい限りである。地子と坂本にはさらなる人材の確保と指導を、小松には立派な対校選手になることを期待したい。

#### 10:15 男子ハンマー投 決勝

千葉(4年)、佐々木(2年)、今村(2年)の出場。朝はやんでいた雨が降り始める中、競技が始まった。

千葉は1投目から安定した力強い投擲で自己新記録の36m08を投げ、調子の良さを見せる。2投目、3投目は少し体勢を崩しながらも35mを超え、5投目に37m30を投げて1位。佐々木は練習量が少なく、練習で肩を痛めた状態での試合であったが、1投目25mを超える。2、3投目で更に記録を伸ばしたが、肩の痛みが強くなり、京大の3番手とは大きく差が開いていたため、4投目以降は棄権。28m24で4位。今村は2投目に22m47を記録し、残りは大きな記録を狙いに攻めたが、回転に入るタイミングがうまく合わないままファールを続ける。結局22m47の5位であった。

今回は3人とも自己新記録を更新し、更に千葉は関東インカレのB標準を切り、良い結果であった。しかし京大の層が薄いために勝った試合と感じられた。1年、2年の成長を期待したい。

### 11:15 男子走幅跳 決勝

西田(4年)、飯島(1年)、八子(1年)の出場。朝から続く雨の中で競技が開始された。時折いい追い風が吹くものの、気温が低く東大、京大ともに好記録が出ないことが予想された。今季の記録では2、4、6位と予想されるが、悪天候に負けずに記録を残せば優位に試合を進められる可能性がある。

西田は今回も多種目出場であり、4×100mRと競技時間が重なっているため、なるべく少ない試技で勝負を決めたい。1跳目はファールをするも、2跳目、3跳目は6m中盤の記録を残し、4×100mRに出場のため一旦ピットをあとにした。飯島は1跳目に6m21を記録するも、2、3跳目は記録を伸ばせない。八子は走幅跳の対校選手としての出場は初だが、きっちりと足を合わせ、5m63で前半の試技を終える。この段階で東大は2、4、6位。一方の京大も記録を伸ばせない。少し記録を伸ばせば順位が変わる接戦である。後半の試技では、雨が強くなり体感温度が低くなってきた。そんななかで3選手とも動きが小さくなり、助走が合わず、誰も記録を伸ばせずに競技を終了した。結果は西田が6m52で2位、飯島が6m21で4位、八子が5m63で6位だった。

今回は悪条件の中、3選手とも実力を出し切ることができなかった。今回で西田は引退。このままでは来年以降の走幅跳の選手層が薄くなってしまふ。冬季練習をしっかりと積むことにより、若手選手の飛躍を期待したい。

### 11:15 女子走幅跳 決勝

高山(4年)、武田(1年)の出場。チームとしては1位、2位の死守が絶対に譲れない種目であった。足合わせの段階でかなり降っていた雨は、試技数が進むに連れて強さを増してゆき、悪条件の中で集中力を切らさず記録を残せるかが注目された。

高山は1本目、リズムの良い助走から踏み切るも、惜しくも着地に失敗し4m69。その後、3本目に4m76と記録を伸ばすが、4本目以降はスピードが上がらず、3本目に記録した4m76で1位となった。武田は1本目に4m24を跳ぶ。その後懸念されていたハムストリングスの痛みが再発し、テーピングを巻き直して試技に臨むも記録を伸ばす事が出来

なかった。それでも京大の1番手からは逃げ切り、4m24で2位となった。

雨で記録が低調な中、両者とも十分実力は出し切ったと言えよう。この種目で東大は京大に4点勝ち越し、後の種目に希望をつないだ。

### 11:30 男子円盤投 決勝

原(4年)、片山(2年)、佐々木(2年)の出場。滝の如く降り続く雨は、窪地となっているサブグラウンドに溜まり、フィールドは海原と化していた。

この状況に原は苦戦を強いられた。雨で円盤が滑り、前半の試技は思うような投げができなかった。実力差では圧倒する京大の3番手に迫られるも、最後は底力をみせ、27m38で5位となった。片山は、このコンディションにも気持ちを切らさず、最後まで集中して投げきった。ベストに近い31m46をマークするも、京大の2番手には及ばず4位となった。佐々木は、試合前に痛めた肩の事もあり、悪条件を嫌って早めに勝負を決めようとし、35m70を2投目にマークし、早々に試技を終えた。しかしこれが仇となり最終投擲で京大の1番手が自己ベストをマーク。逆転を許し2位となってしまった。

主力を揃えるこの種目で勝ち越せなかったのは、運によるところも大きいのが、実力差や油断も原因と思われる。来年のリベンジに向けて努力してほしい。

### 13:00 男子棒高跳 決勝

原(4年)、土居(3年)、松原(1年)の出場。ボックスの排水が追いつかない程の豪雨の中、30分以上遅れての試合開始。

痛めた右肩をおして出場した土居は、右腕が痺れ、雨もあってグリップに力が入らないため、短助走での跳躍。開始となる2m30を1跳目でクリアし、試技を終えた。松原は、大学での公式戦初出場ということもあり、最低の2m30で記録を残すことに。しかし1跳目、タータンとボックスの境目にボールが引っかかって突っ込みを誤り、ボックスに背面を強打してしまう。恐怖心を堪えて2跳目でこれを越え、痛みのため途中棄権。原は3m20からの跳躍。1跳目はボールの立ちが足りず失敗するが、2跳目ではしっかりとこれを修正してクリア。しかし、続く3m50の一回目、松

原と同じようにボックスに引っかかり背中を通打し、痛みや他種目への影響のためここで途中棄権。豪雨のため両校とも低調な記録だが、実力はそのままだに京大に上位を独占された。

京大との実力差は大きい、身体能力の高さを感じさせる松原や、来期から跳躍ブロックに転向する原の伸び、土居の怪我の完治に期待したい。

### 13:30 男子砲丸投 決勝

原(4年)、佐々木(2年)、片山(2年)の出場。激しい雨が降り、気温も低い中での試技となった。持ち記録から考えると佐々木は1位をとり、原、片山は4、5位をとれば勝ち越せたが、雨で実力が出しづらくなっていることも考慮すれば、10mを投げれば上位に食い込む可能性も十分にあったので気合も入っていた。

片山は上半身の回転が先行し、砲丸に対して下半身からの力を伝えることができず、また最後まで押し切ることもできなかった。5投目に8m82を投げ4位で試技を終えた。原は同じ時間帯に棒高跳の試技があり、タイミングが合わず3投しか投げることができなかった。5投目に7m80を投げたが、京大の3番手が記録を伸ばしていたため、6位となった。佐々木は肩を痛めていたため苦戦を強いられた。京大の1番手が1投目に10m07を投げ、プレッシャーがかかったのか、前半は9m台に沈んでしまう。だが、5投目に意地をみせて10m10を投げ、1位となった。

砲丸投全体としては負け越してしまい、非常に悔しい結果となった。今後はドリルなどの動きづくりを通して、どんな状況でも負けないような基礎の力をつけていきたい。

### 13:30 女子砲丸投 決勝

高山(4年)、武田(1年)の出場。雨が降っており気温の低い中での競技となった。持ち記録では両選手とも京大を上回っていて、大量得点が狙える種目であった。

武田は足元の悪さを考慮して立ち投げで1投目に臨み、7m51を投げて首位に立つ。4投目からグライドに切りかえるが、フォームが崩れてしまい、なかなか記録をのばすことができなかった。結局7m51が最高記録とし

て残ったが、なんとか1位を守った。高山は以前より取り組んでいたグライド練習の成果を発揮し、着実に記録を伸ばして5投目の6m73で2位に入った。目標記録には届かなかったものの、雨に苦しんで記録を落とす選手が多かった中で安定した実力を見せた。

結果としては、東大は1位、2位を独占し、トラックの強い京大に対して風穴を開けることができた。記録的に不本意な試合となった武田には雨への対応の仕方なども含めて、今回の反省を先の試合で生かすようにしてもらいたい。高山は今年で引退ではあるが、できれば今後も競技を続け、さらなる好記録を目指して行ってほしい。

### 14:00 男子三段跳 決勝

廣瀬(5年)、定金(4年)、西田(4年)の出場。朝から降り続く雨の中での競技で、選手は気温が非常に低い中での待機を余議なくされ、いかに体を冷やさないかということに注意しなければならなかった。三段跳はやり投とともにフィールド終盤の種目で、実力のある3選手に期待がかかった。

定金は膝と臀部に不安があり、テーピングをしての出場。今年3月から長引く怪我の影響による調整不足のため、普段の半分の助走で跳躍を行った。記録は12m52で5位となり、ハンを抱えながらも京大の選手1人の記録を上回った。廣瀬は継続的な練習を積めていなかったが、1週間前の練習でまずまずの動きを見せており、ベテランとしての意地を見せたいところ。しかし、雨と寒さの影響で動きが悪く、13m23の4位となった。西田は三段跳びがこの日5種目目の競技であり、1跳目から精彩を欠いていた。記録は13m33の3位であった。雨と寒さによる悪いコンディションのため、優勝記録も13m台という低調な結果であった。

2年間部内トップ3の成績で三段跳を牽引し続けたきた今回出場の3人は卒業するため、共に練習してきた下級生の成長が望まれる。人不足に悩む跳躍パートの一員である筆者としては他パートからの積極的な参戦を期待したい。

14:15 男子やり投 決勝

千葉(4年)、原(4年)、山東(2年)の出場。朝から雨が降りしきっていて少し肌寒い中、試合は行われた。記録的には京大のほうが優勢であり、それをいかにひっくり返すかが最大の勝負どころであった。

千葉は見事1位をとったハンマー投に引き続いて、やり投でも優勝し2冠を達成したいところであった。1投目から50m30の好記録をマークし、3投目が終わった時点で暫定1位であった。しかし4投目に京大の1番手に抜かれ、その後記録を伸ばすことができないまま50m30で2位となった。原は他の種目による疲労が残った状態で投げることとなった。1投目は34m29と、雨で投げづらかったこともあり、記録はいまひとつであった。続く2投目以降も記録を伸ばすことができず、30m前後の投躰が続き、結局この記録のまま34m29で5位に終わった。山東はシーズン最後の大会で40mを何としても超えたい状況であった。しかし1投目から30m前後の記録が続き目標にはほど遠い結果となった。記録は6投目の32m77で6位に終わった。

全体的には持ち記録通りの結果となったが、各自の課題を克服し、来シーズンに向けて強化していく必要があると感じさせる試合であった。

3.4 試合結果

第83回東京大学 京都大学対校陸上競技大会

第9回東京大学 京都大学対校女子陸上競技大会

於 山城総合運動公園陸上競技場 (H22.10.9)

男子 100m 決勝 (+1.3)

1	眞武俊輔	京都大	10"89
2	牧川真央	京都大	10"92
3	西田昂広	東京大	11"01
4	春日慶輝	東京大	11"08
5	塚原和明	京都大	11"15
6	菊地典晃	東京大	11"35

男子 200m 決勝 (+0.6)

1	牧川真央	京都大	22"38
---	------	-----	-------

2	眞武俊輔	京都大	22"81
3	眞木伸浩	東京大	22"81
4	西田昂広	東京大	22"86
5	塚原和明	京都大	22"94
6	春日廣輝	東京大	22"97

男子 400m 決勝

1	大沢渉	東京大	50"53
5	長谷川聡	京都大	50"96
6	花岡洋祐	京都大	50"99
2	上松祐太	東京大	51"45
3	萩生翔大	京都大	51"49
4	小松侑太	東京大	53"25

男子 800m 決勝

1	大川亮	京都大	1'59"00
2	水元惟暁	京都大	1'59"13
3	宿利隆司	京都大	2'01"12
4	近藤堯之	東京大	2'01"42
5	木内久雄	東京大	2'05"45
6	原慎一郎	東京大	2'06"65

男子 1500m 決勝

1	小山俊之	京都大	4'07"19
2	坂本剛	京都大	4'09"51
3	大川亮	京都大	4'11"65
4	池田剛志	東京大	4'14"96
5	大内田弘太郎	東京大	4'19"64
6	渡邊拓也	東京大	4'38"21

男子 5000m 決勝

1	小山俊之	京都大	14'49"52
5	山田唯	京都大	14'57"60
2	東大貴	東京大	15'02"49
6	柿本悠貴	京都大	15'07"89
3	山田竜也	東京大	15'24"55
4	宮野健司	東京大	15'35"16

男子 110mH 決勝 (+0.8)

1	酒谷彰一	東京大	15"45
2	増本健太郎	東京大	15"73
3	前田靖朝	京都大	16"19
4	江間輝裕	東京大	16"28

5	大橋正義	京都大	16"29
6	近藤勇太	京都大	17"12

## 男子400mH決勝

2	酒谷彰一	東京大	55"64
3	大橋正義	京都大	55"89
4	上松祐太	東京大	56"12
1	赤木裕	東京大	58"06
5	田所竜翔	京都大	1'00"54
6	前田靖朋	京都大	1'04"75

## 男子5000mW決勝

1	早川晃司	東京大	22'54"52
2	瀧川朗	東京大	24'10"77
3	永田和寛	京都大	24'27"30
4	生谷隆磨	京都大	24'39"59

## 男子4×100mR決勝

1	東京大	43"04
(春日-西田-真木-増本)		
2	京都大	43"10

## 男子4×400mR決勝

1	京都大	3'23"54
2	東京大	3'23"98
(真木-大澤-増本-定金)		

## 男子走幅跳決勝

1	西村優汰	京都大	6m75(+1.2)
2	西田昂広	東京大	6m52(+0.4)
3	秋元一志	京都大	6m45(+0.5)
4	飯島靖成	東京大	6m21(+1.9)
5	巽浩之	京都大	6m01(-0.1)
6	八子基樹	東京大	5m63(+1.4)

## 男子三段跳決勝

1	西村優汰	京都大	13m60(+1.5)
2	秋山源	京都大	13m35(+0.1)
3	西田昂広	東京大	13m33(-0.1)
4	廣瀬彬	東京大	13m23(+0.4)
5	定金駿介	東京大	12m52(+0.9)
6	飯村大智	京都大	12m41(+0.3)

## 男子走高跳決勝

1	坂本智	東京大	1m75
2	松室堯之	京都大	1m70
3	小松寛	東京大	1m70
4	地子智浩	東京大	1m65
5	小西康晴	京都大	1m60

## 男子棒高跳決勝

1	小西康晴	京都大	3m70
2	秋元一志	京都大	3m60
3	田中皓介	京都大	3m50
4	原湖楠	東京大	3m20
5	土居富裕	東京大	2m30
6	松原洸也	東京大	2m30

## 男子砲丸投決勝

1	佐々木駿	東京大	10m10
2	林翔太	京都大	10m07
3	矢川勝太	京都大	9m62
4	片山卓也	東京大	8m82
5	高橋源一郎	京都大	8m26
6	原湖南	東京大	7m80

## 男子ハンマー投決勝

1	千葉伸宏	東京大	37m30
2	高橋源一郎	京都大	35m26
3	矢川勝太	京都大	32m77
4	佐々木駿	東京大	28m24
5	今村昌平	東京大	22m47
6	川島龍樹	京都大	12m70

## 男子円盤投決勝

1	林翔太	京都大	36m14
2	佐々木駿	東京大	35m70
3	矢川勝太	京都大	33m50
4	片山卓也	東京大	31m46
5	原湖楠	東京大	27m38
6	川島龍樹	京都大	26m95

## 男子やり投決勝

1	林翔太	京都大	51m94
2	千葉伸宏	東京大	50m30
3	矢川勝太	京都大	43m07

4	川島龍樹	京都大	42m77
5	原湖南	東京大	34m29
6	山東誉英	東京大	32m77

男子トラック順位

1	京都大	107
2	東京大	87

男子フィールド順位

1	京都大	91
2	東京大	76

男子総合順位

1	京都大	198
2	東京大	163

女子100m 決勝 (+2.0)

1	釜谷美翔子	京都大	13"22
2	久保木結	東京大	13"23
3	鈴木理香	東京大	13"33
4	加奈山憲代	京都大	13"35

女子400m 決勝

1	釜谷美翔子	京都大	1'01"53
2	加奈山憲代	京都大	1'02"47
3	浜松由莉	東京大	1'06"30
4	鈴木彩夏	東京大	1'07"71

女子800m 決勝

1	岩橋優	京都大	2'19"35
3	浜松由莉	東京大	2'27"53
4	福谷彩織	京都大	2'32"87
2	増田有里子	東京大	2'34"58

女子3000m 決勝

1	岩橋優	京都大	10'45"60
3	田中友理	京都大	11'13"53
2	杉浦奈実	東京大	11'28"22
4	鈴木恵美里	東京大	11'47"47

女子4×100mR 決勝

1	京都大	52"54
2	東京大	52"54

(鈴木-久保木-武田-高山)

女子走幅跳決勝

1	高山花子	東京大	4m76(+1.9)
4	武田有紀子	東京大	4m24(-0.8)
2	増本梨奈	京都大	4m11(+1.7)
3	三村有葉	京都大	3m55(+1.3)

女子砲丸投決勝

1	武田有紀子	東京大	7m51
2	高山花子	京都大	6m73
3	増本梨奈	京都大	6m40
4	市塚友香	京都大	5m85

女子トラック順位

1	京都大	29
2	東京大	17

女子フィールド順位

1	東京大	14
2	京都大	6

女子総合順位

1	京都大	35
2	東京大	31

## 4 箱根駅伝予選会

### 4.1 長距離チーフの言葉

長距離チーフ 竹俣直道

昨年、山崎チーフから長距離パートを託された時はパート員の力が充実していたこともあり、予選会の目標として最低でも11時間切り、あわよくば東大記録を狙うという目標を立てておりましたが、フタを開けてみれば11時間16分55秒という昨年よりも5分以上遅い結果となってしまいました。チームを任された代表として責任を感じております。

思えば春のトラックシーズンから不安要素はありました。今年のチームは5000mで16分を切っているメンバーが12名以上おり、非常に層の厚い構成になっていました。しかし、中位層としてチームの底上げを担ってほしかった大久保(2年)、野田(2年)の故障をはじめ、チームの中核である山田(3年)の合宿での故障、東(3

年)の夏先からの不調など、チームの主力にも様々な不安要素が露呈してしまいました。また、9月前半はチーム全体の調子がなかなか上がってこなかったうえ、宮野(3年)の教育実習、青木(3年)の短期留学なども入り、チーム全体で質の高い練習が積みませんでした。9月後半にはチームの調子も全体的に上がってきましたが、調子が上向いていたせいか予選会本番では皆序盤に突込み気味になってしまい、気温が高かったこともあって後半にバテてしまうというレース展開になってしまいました。毎年感じてはいることなのですが、予選会本番にチーム全体をベストの状態にもっていくことの難しさ、そして周りの空気に飲まれずに自分のレースをすることの難しさを痛感させられる大会となってしまいました。ピーキングに左右されない走りの土台を冬から作り上げておくこと、そして夏合宿から予選会に向けた緻密な練習メニューの組み立てが必要だと再認識いたしました。

暗い書き出しになってしまいましたが、来年に向けて明るい材料も沢山あります。今年の予選会のメンバー12人のうち10人は3年生以下なので、来年も層の厚いチーム構成が望めます。また、先ほど述べましたように予選会では序盤に突込み気味のレース展開になってしまったものの、選手の5kmの通過タイムは15分20秒~16分50秒と例年になく速いタイムであり、チームの力が付いてきていることの裏付けになっていると言えるでしょう。新チームも「来年こそは東大記録更新を」と来年の予選会に向けて既に動き出しており、先輩として非常に心強く感じております。

最後になりますが、私自身は3年の春から全く選手としてチームに貢献できず、自分がチームを率いて本当によいのかと自暴自棄になった時期もありました。しかし、OB・OGの皆様や院生の先輩方の励ましをはじめ、他パートの皆様、藤田監督、合宿でお世話になっている清里町の皆様、そして何より長距離パートのみんなの支えがあって、何とかここまで来ることができました。本当にありがとうございました。

新チームである宮野には、「練習はストイックに、チームは楽しく」という長距離パートのいい伝統を大事にしてチームを引っ張ってってもらえたらと思います。一年間ありがとうございました。

## 4.2 大学院駅伝主将の言葉

大学院駅伝主将 松本光一

今年度院生駅伝主将を務めさせてもらった松本光一(M2、工学系研究科機械工学専攻)です。今回は全員の合計タイムが12時間00分24秒、総合順位34位とこ

れまで院生チーム7回の出場の中で最も遅い記録となってしまいましたが、何とか全員完走を果たしました。一方、依田(D3)は総合順位61位、61分57秒の快走を見せ、学連選抜入りと本戦への出場が期待できる結果を残しました。今回の院生チームは出場が非常に危ぶまれていたので、出場に至る1年間の経緯を振り返って駅伝主将の言葉とします。

去年の予選会が終わった時点では、次年度院チームに入る予定のメンバーを合わせて出場資格を持つ人が10名を超えており、メンバー不足の心配はないと思っていました。ところが、4月に突然出場標準記録が16分30秒に上がり、出場資格を持つ人が6人まで減ってしまいました。院生チームは6年間連続出場を果たしてきており、自分たちの代で途切れさせることのないよう、何とかメンバーを揃えることが僕の駅伝主将としての使命となりました。

まずは学部から上がってきた野村(M1)に声をかけ、走ってもらえることになりました。標準記録を持ってはいるものの、持病のために走るのを控えていたところをお願いしました。他にあてを探したのですが、見当たらなかったためにあと3人は現在のメンバーで標準切りをすることとなりました。標準記録を切るためには平日も集まって質の高い練習を行うことが望ましいのですが、時間の制約から1ヶ所に集まって行うのは難しい問題がありました。そこで、メンバーは大きく分けて柏、本郷、駒場に分散していたので、平日のポイント練習はそれぞれの場所で時間の都合を付けて行うことにしました。

本格的に練習を始めて6月までは調子も比較的良く、夏の暑くなる前に標準記録を切ってメンバーは揃うだろうと思われていました。ところが、今年は例年にない猛暑で記録は全体的に落ち込む一方、金尾(M2)は7月上旬に出たシーズン初レースで8年ぶり自己ベストを出し、希望を与えてくれたもののあと2人足りないままとなりました。9月のレースで標準切りを見据えて8月は有志で菅平や妙高で合宿を行い走り込みを行ったものの、9月に入っても記録を出すには厳しい猛暑が続き、5000mで17分台のレースが続きました。最後のチャンスとなる9月26日の日体長でようやく気温が下がり、中村(M2)と加藤(M2)が標準記録を切りました。中村は15分台で走ったことのある選手で期待通り記録を出してくれました。加藤は日体長で標準切りを狙った人の中でも最後の組で、標準を切れたらチームの出場が決定、切れなかったら出場不可というプレッシャーの中でよく走ってくれました。

残念ながら石川(M1)、小川(M1)、松本(M2)、進

野(M2)、宮城(M2)は標準記録を切ることができませんでした。最大限の努力をしたものの、異常な暑さで体をやられたり直前で学会による回避不能な徹夜が入ったりで記録が出ないこともあります。石川、小川、そして標準が切れる野村、月崎はこの秋と冬でぜひ標準を切れることを願います。チームの出場が決定してからも安心できない状況が続きました。標準記録を持っていてもケガがちで走れなかったり走り込みが不足していたりで、20kmのレースを走りきれない可能性のある選手が多かったためです。出場が決定してからというもの、予選会を走れない人も一丸となり、走り込んだり調整を行ったりベストな状態で臨めるよう努力しました。

結果、今回のレースにチームが出場を果たし、無事10人全員完走しました。今回は完走しただけとはいえ、価値あるレースだったと思います。自分が出場できなかったこともあり、誰も棄権することなく走りきって記録を残してくれたことに感謝しております。

最後に、院生チームの出場にあたり、学部生やOB・OGの方々から多くのサポートをいただき、感謝しています。特に、瀧川(2年)、井上(3年)には学連登録からエントリー手続きまで全てしてもらいました。田坂先輩や民内先生から数多くの助言を頂きました。ありがとうございました。来年もそれ以後も院生チームが存続し、幅広い実力の院生たちの活躍の場となることを願います。これからも学部生だけでなく院生チームへも応援、サポートの程よろしくをお願いします。

### 4.3 出場選手の言葉

#### 学部生

宮野 健司(3年) 1時間04分44秒(194位)

今年の対校戦での好成績から一転し京大戦5000mで心配をおかけするような走りをしてしまいましたが、何とか1週間で立て直すことができました。

入りの5kmの15'25(京大戦5000mより速い)は想定外でしたが、これは力まずリラックスして走った結果でした。このまま20km走り切ることが出来ればよかったです。やはり9月の教育実習の影響で直前期に走りこめなかったためにラップはどんどん落ちてしまいました。周りのペースが同じように落ちていたために10kmから15kmの5kmが16'30もかかっているとは気づきませんでした。さらに、公園内は坂道も苦にならず例年と比較して楽に走り次々と抜いていったのですが、これは春に高尾山で走りこんだ成果かななどと考えていたためにここまでペースが落ちていたこと(15kmから

20kmは16'52)に気づきませんでした。このペースならば楽に走れたのは当たり前でした。そのためかあまり「追い込めた」感覚もなく不完全燃焼でした。原因は9月に距離走を全くしなかったことにより自分を追い込む感覚がなかったためだろうと思われれます。とはいえ、たればを言っても仕方ありませんが、9月に走り込めていたならば学連選抜入りも狙える位置にいたのではとも思います。ある程度こうなることを想定して3年生のうちに教育実習を行ったので(4年生で教育実習を行う場合が多い)、箱根駅伝本戦出場を狙える位置にいるのだと信じて残り1年強くなっていきます。

最後になりましたが、OB・OGの皆様、清里町の方々、そしてチームメートみなさん、朝早くから応援・サポートありがとうございました。来年はみなさんを驚かせるような走りをする。

東 大貴(3年) 1時間05分06秒(210位)

3年連続3回目の出場ということで、リラックスして臨むことができました。1週間前の京大戦では復調の兆しが見え、火曜日の練習の調子もまずまずでした。しかし、当日になって京大戦の疲れが上手く抜けきれず、調整に失敗してしまった感否めませんでした。

そのせいか、5kmを通過した時点で既に苦しくなってしまう、そのあとはずるずるとラップが落ちてしまいました(5km毎のラップは15'29-16'19-16'40-16'37)。気温の高さにも苦しめられ、65分06秒と、昨年より30秒以上遅い残念な記録になってしまいました。今年こそは64分を切るようと意気込んでいたので本当に悔しいです。

この冬にしっかり走り込んで、来年の予選会では学連選抜に選ばれるように頑張りたいと思います。当日は朝早くから応援・サポートをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。来年こそは皆様の期待にお応えするような走りをする。

山田 竜也(3年) 1時間05分36秒(237位)

当初の目標は3'10/kmちょっとくらいで前半は行き、後半の粘り勝負のつもりでした。東が同じくらい、と宣言していた割に明らかに飛ばしていたのでついて行くのはやめ、代わりに後ろに青木が確認できたのでそれを引っ張るつもりで走りました。5kmまではペースが前後したもののまずまず動いていて、たくさんの方に応援してもらっているのにも気づける余裕があったのですが10km通過が意外と遅く、知らない間にペースダウンして

いたことに気付くとやや焦りが生じ、また位置取りが悪かったせいで給水を取り損ね、一層焦ってしまいました。だんだん脚が回らなくなり始めた感覚があったので、腕振りをコンパクトに、体が開かないように意識することでピッチを保つことができました。この辺りから周りが急速にペースダウンし始め、順位を上げていく形になりました。気分は良かったのですがそのせいで自分もペースが落ちていることに気づかず、10-15kmの間に失速したせいで目標タイムであった64'30がほぼ不可能になってしまいました。昨年は後半もかなり粘れたのはやはり山田健太郎先輩に引っ張ってもらえたのが大きかったということでしょう。

公園に入っても順位を上げていくことと絶え間ない応援で気持ちを切らさず走り通すことができました。アップダウンも周りほど影響を受けませんでした。個人的な感覚としてはむしろ下りの方が脚へのダメージが大きかったように感じます。スムーズにスピードを上げて下れるような走り方も身につけていきたいです。タイムは決して良くありませんが、上位2名とのタイム差は昨年とほぼ変わらないので、暑さ等を考慮すれば及第点と言えるのかもしれません。

自分は昨年のこの大会から腰を痛め始め、今年度の前期は全くと言っていい程走れていなかったのですが、9月から継続した練習を再開し、何とか間に合わせることができました。当日の応援ももちろんそうですが、パート内外を問わず部員のみんなの協力と、OB・OGの皆様方のご支援のおかげで自分はここまで戻ってくることができました。本当にありがとうございます。

来年の目標は61分台です。これから1年間充実した練習が継続できれば必ず達成できると思っています。今年の悔しさと安堵と感謝の気持ちを忘れず練習に励みます。朝早くから応援本当にありがとうございました。

#### 青木 佑樹(3年) 1時間06分31秒(261位)

私は3年連続3回目の出場ということもあり、ほとんど緊張することもなくレースに臨めました。目標は65分ということで、現状の実力からすれば十分達成することのできる記録だと思いました。しかし、最初の5kmを想定ペースより早く入ってしまい、後半に体力がなくなってペースを落としてしまう最悪のレース展開となりました。強気の姿勢でレースを進めていけたことはよかったのです

が、後半に粘りが効かなかったのが反省点です。また、若干風邪をひいてしまったこともあり、自分の体調をうまく把握できていなかったこと、当日までの体調管理がうまくできなかったことも悔やまれる点であります。しかしながら、公園内でのチームメイト・OB・OG・清里町の方々の応援に勇気づけられ、なんとか最後まで走りきることができたと思います。名前を呼んで応援していただけたことがとても印象強く残っています。本当にありがとうございました。心残りは、最高学年の方々の最終レースだということに最高の走りで饞にできなかった点です。3年間という長い間お世話になった先輩方にこの場で感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

しかし、私にはまだ1年間の猶予が残されています。幸いにも実力のある同期にも恵まれています。来年こそは最高の走りをして、チームで東大記録の更新を目指したいと考えております。来年の本大会に向け一層の努力をしてみたいです。

#### 渡邊 駿(2年) 1時間08分34秒(312位)

昨年は緊張でガチガチで夜何度も目が覚めたりするほどでしたが今年は2回目ということもあるし、トラックの対校戦を何回か経験したおかげでリラックスしてスタート地点に立つことが出来ました。ですが、スタートしてすぐに頭に血が上ってしまったのが自分の状態よりも明らかに速いペースで入ってしまいました。「これはマズい」と思って(タイムとしてではなく、状態として)5km-10kmでペースを落として落ち着こうと思ったのですが、思った以上に初めの突っ込みが効いていてかなりペースを落とすことになってしまいました。10km付近で中島先輩と梁瀬に追いつかれ、そのおかげで気持ちを入れ直してリズムを作りなおし、後半になってやっと20kmのレースらしい走りが出来ました。この点はこれまでの走りこみによるもので、昨年よりも力がついたことを示す良い点だと思っています。ですがやはり最初の無理がなければもっとまともなペースで押していけたらと思うだけに残念です。これはレースペース前後の速さでの練習が不足していたことにより、ペース勘が低下していたことと速いペースでの持久力が不足していたことに原因があるように感じました。怪我等で7・8月に思うように走りこめず、その分の走りこみが9月にずれこんでしまったことが影響していると思われます。怪我等により中長期的計

画が崩れた場合に如何に修正するか、ということの大切さを感じます。怪我の経験が薄く、「自分は決して怪我をしないだろう」と高をくくっていたことの愚かさを思い知りました。今後は計画作り・計画の実行においてもっと意識を高く臨むように努力していきます。目標は66分前半においていたので非常に残念な結果ではありますが、昨年より1分15秒程度記録を更新出来ました。

このように自分がこの1年で少しではあれロードでの実力をつけることが出来たのは4年の中島先輩・高田先輩が中下位陣を引っ張っていったおかげによるところが非常に大きいです。本当にお世話になりました。今後はしっかり独り立ちをして、先輩方に頼らなくても強くなった姿を見せたいです。今年も清里町の方々に名前を呼んで応援して頂き、とても嬉しく感じました。部の関係者の皆様も含め、多大なる応援・サポートを頂けたことに感謝しております。ありがとうございました。

梁瀬 将史 (1年) 1時間08分54秒 (319位)

箱根駅伝の予選会といった大舞台でのレースは初めてだったので、走る前から大変緊張していました。

1週間前の京大戦では絶不調でしたが、そこから調子もあがってきて何とかチーム10位以内に入ってチームに貢献したいと考えていました。5kmを17'00ペースで行く予定でしたが、およそ3'20/kmのペースで余裕があったので、このままのリズムで行こうと思いました。中島さんや10km手前で追いついた駿さんに何度か離されそうになりながらもついていきました。公園に入ってからはまだ余力が残っていたので思い切ってペースをあげました。しかし、公園内のアップダウンがキツく、15kmを過ぎてからは足が重くなり、ペースが大きく落ちてしまいました。駿さんにも徐々に離されてしまって、ラスト5kmがすごく長く感じました。チーム6位というのは自分でも出来すぎだと思いましたが、タイムは今一つという感じです。

入学当初は予選会に出られるまで力が戻ってくるとは思っていませんでしたが、夏以降、特に怪我なく練習を積むことができたのが良かったと思います。これからは怪我せず練習を積んでいき、自分の力を伸ばしていき、来年の予選会ではもっといい走りをします。今回しっかり走れたのは、応援して下さった皆様、サポートして下さった方々のおかげです。本当にありがとうございました。

高田 知樹 (3年) 1時間09分21秒 (330位)

68分くらいで走ることを目標にしましたが、結果はそれより1分遅くなってしまいました。最初の5kmが16'43でちょうどよかったのですが、そのペースがすでにきつく感じてしまい、そのあとは3'30/kmで粘るのがやっとでした。最後まで大きく崩れなかったところだけが良かったと思います。力はすべて出しきれたと思います。ただ、実力が足りてなかったのだと思います。これで最後なので、満足しとくことにします。応援やサポートありがとうございました。三年生以下の皆さんは、来年に向けてがんばっていきましょう。

高田 知樹 (3年) 1時間09分21秒 (330位)

情けない事を言って申し訳ありませんが、今回の箱根駅伝予選会では昨年度に比べタイムも遅くなり、かなり悔いの残る結果となってしまいました。当日の天候や調子など様々な要因があるのだと思いますが、やはり昨年記録を伸ばすことが出来た分油断があったのだと思います。またキツいなかでも、沿道の皆様の応援や声をかけてくれた中島先輩のおかげで最後まで走りきることができ誠にありがとうございます。

現3年生には速いメンバーが多く、彼らのレベルに追い付きともに戦うためにも、応援して下さる皆様に報いるためにも、今年の悔しさを晴らすためにも大学最後の一年を精一杯頑張り、来年こそは大学四年間にふさわしい結果を残したいです。

岩川 純也 (2年) 1時間09分23秒 (332位)

今回が初めての出場、20kmやハーフマラソンでいい結果を残したことがなかったのですが、68分あたりを目標にして臨みました。最初の5kmは16'42とまずまずだったのですが、5kmを過ぎたあたりでこのままではつぶれそうだと思って攻めの走りができなくなり、10km通過が34'04。それから少しずつペースが落ちていき、公園に入ってから気持ちを切り替えたものの、ほとんどペースアップすることはできませんでした。後半は周りの人のペースが自分以上に落ちていたので、こんなにペースが落ちていることに気が付きませんでした。完全に力不足です。まだまだ後半で踏ん張れる力がありませんでした。

走り終えて、自分は速いペースを維持する持久力が足りないと感じました。3'20/kmあたりのペースを楽に走れるよう練習を積みたいと思います。そして来年はもっと攻めの姿勢で走ろうと思います。

チームに貢献するような走りはできませんでした。しかし、多くの課題を見つけられただけでなく、周りの強い選手からの刺激を受けることもでき、とてもいい経験になりました。また、これほどの応援・サポートを受けて走ったのは初めてで、大きな力になりました。OB・OGの皆様、清里町の方々、部員のみなさん、本当にありがとうございました。

中島 圭一 (4年) 1時間09分38秒 (336位)

目標は3'20より少し遅いくらいで押していきあわよくば67分を切ろうという設定でした。入りは予定通りのペースで入ることができ比較的余裕を持って走ることができていたのでよかったのですが、8kmを過ぎたあたりでお腹にチクチクとした痛みが走りはじめ、去年の上尾ハーフで腹痛で走れなくなってしまった悪夢が頭をよぎりお腹が痛くならないようにかばうような走りをしてしまいましたその結果、腹筋を十分に使わない走りになってしまい足の力だけで走ることに余計な力を使ってしまったと思います。そこで守りに入ってしまったことが自分の弱さです。公園内に入ってからもう地獄で、梁瀬、渡邊駿が見る見る間に遠くなっていき、また自分の意識も遠くなっていき、ジョグみたいな走りになり、ラストでは後ろから来た畠田、高田、岩川にことごとく抜かれてしまいました。ラスト5kmは人生で最も長い5kmに感じ、苦しくて苦しくて本当にどうしようもなく泣きたい気持ちでいっぱいでした。沿道から絶え間ない応援があったおかげで走れたようなものです。

これまでやってきた練習には自信があり、今までのレースでも早い段階できつくなってしまっても我慢の走りで最後まで粘っていたのですが、今回は腹筋の使えていない走り方をしていた上に、後半の気温上昇が重なり大幅にペースダウンしてしまったことが残念です。しかし、本番でこの走りしかできなかったのは結局はそれしか僕の実力がなかったということなので、悔いが無いと言ったら嘘になりますがこれが僕の全てだと思います。

形の上ではこのレースをもって引退ですが来年以降は院チームで走るチャンスもありますし、練習をしっかりと積んでこれからまだまだ強くなります。朝早くから本当に応援、サポートありがとうございました。

大久保 翔平 (2年) 1時間11分57秒 (364位)

レースプランとしては3'15~20/kmのペースで押して行って66分を目指しつつある程度崩れても

67分切りというところを狙っていました。ただ当日思った以上に暑く感じたので少し自重して5kmは16'40あたりで入ろうかと思っていました。

レース開始直後とりあえずついていこうと思っていた渡邊が思った以上に突っ込んでいたのでどうしようか迷ったのですがペースが落ち着いたらつきたかったので少し距離をとりつつも想定より少し早いペースで行きました。5km手前で渡邊に追いついてそれほどきついとは感じなかったのですがそのペースで押すことにしました。そこからはほとんど1kmごとの距離表示が分からず近く集団について行きました。しかし9km辺りですこしづらくなってきたのでペースを少し落とすことにしました。自分としてはそれほどはじめての5kmと変わらないペースだと思っていたら17分越えのペースになっていて「あれ?」と思いつつここから粘ればいいのかと思っていました。ところがそのあたりからますますきつくなりたまたまキ口表示の見れた11kmから12kmで3'40かかろうと思いき、でもペースをこれ以上上げることができず皆に次々抜かれてもついていこうとすることさえできませんでした。おまけに14km辺りで左足が動かなくなり公園内では上り坂で止まりそうになってしまいました。本当に最後はゴールできるのかどうかわからず一步一步進めることだけ考えて走っていました。

大事な試合でこのような無様な走りをしてしまい申し訳ないですし、直前に代わってもらった瀧澤には本当に済まなく思っています。原因は自分の力を過信して前半突っ込んでしまったこと、貧血のため7月後半から8月終わりまでまともな練習ができなかったことなどが挙げられますがそれにしてもこのような走りになるとは思いもしませんでしたし今でも信じられないです。決して疲れが残っていたわけでもなくいいモチベーションで臨めていたので正直なところショックです。しかし落ち込んでいるばかりではいられませんのでこれを糧にまた練習に励みます。応援、サポートありがとうございました。

早川 晃司 (4年) 1時間12分44秒 72'44 (374位)

4年生にして初出場となりましたが、見るも無残な結果に終わってしまいました。せっかくメンバーに選んでくれた長距離の皆や応援してくださった方々には、本当に申し訳ない気持ちです。

出来れば69分、最低でも70分は切って、部内10

番目以内に入るのが目標でした。ですが、イーブンペースで押していく予定だったにも関わらず、周りにつられて最初の5kmを16'52で入ってしまった時点で試合終了でした。特に公園に入ってからからはjogのような走りしか出来ず、情けなかったです。自分の走り込み不足・実力不足を痛感しました。

現時点では東大院に進学予定なので、チャンスがあればベンジしたいと思います。また、今後は専門種目の競歩で良い結果が出せるよう、精進します。最後になりましたが、朝早くから応援・サポートありがとうございました。

## 大学院生

依田 崇弘 (D3) 1時間 01分 57秒 (61位)

昨年で、成績を追及する陸上競技からは引退したつもりでしたが、本年は東大大学院の連続出場をつなぐため、チームの一員として、出場させていただきました。結果は意外にも自己最高の61位と、自分の実力以上のものを収めることができました。これも東大の皆様のご声援があってこそと感じております。ありがとうございました。

増田 紘之 (D1) 1時間 06分 49秒 (272位)

今年は三回目の予選会となりました。ようやく三週間前に院生チームも出場の決定に沸きましたが、私自身練習量が全然確保できておらず、出場が掛かった記録会の日も皆を信じて、少しでも持久力を取り戻そうと山まで行ってジョギングするような感じでした。

結果は20kmが1:06:49で、ゴール直後の血中乳酸値で5.7mMと、明らかに追い込むことができいませんでした(去年は10.9mMでした)。走っている最中も少しペースを上げると呼吸筋が痙攣の感じがあり、一定ペース以上に強度を上げることができなかつたのは、大会一週間半前に1000m(3'00)×3本を設定通りには1本しかできなかつたことから明らかでした。

ただ身体への負担の少ない(血中乳酸値で2mM以下くらい)ジョギングを30kmくらいゆっくりたまたに走るだけで、走り終わった直後でもケロッとしていられたり、これ位のタイムでは走れることが分かったのは自身の中で大きな収穫でした。目的とする距離を一応にして走る土台があっても、続く強度の高い運動をするときに大きく関わる呼吸循環が、正しく大きく影響してくることを実感することができた機会となりました。そして、燃料(エネルギー)が続く限りは、エネルギー代謝を維持す

るホメオスタシスの範囲内では、自分の思っている以上に長くヒトは運動できるんだなということです。いつも研究室にいと、運動中の身体のことを考えているはずなのに、頭と体がバラバラで一致している感じが無くなってきます。これでは運動生理学を学ぶ人間として駄目ですが。ということで来年も是非走らせて頂きたいと思います。よろしくお願いします。

とはいえその前に、例年にいつも思うことではありますが、東大陸部の方々のサポート無しには予選会当日を迎えることはできません。大変感謝しております、ありがとうございました。

北川 裕一 (D1) 1時間 07分 08秒 (282位)

今年も東大陸上部関係者の皆様のおかげで中学生の頃から夢見ていた舞台に出させて頂き、心から感謝を致します。

今年は、修士論文発表・提出時期に自分の力不足からスケジュールをしっかりと調整できなくなり走れなくなりました。その後はアキレス腱を痛め、2月、3月、4月とまともな練習が積めずに終わりました。5月に入り、M1の山崎君と定期的にポイント練習をやるようになり、少しずつですが、力が戻ってきました。しかし、前期の5000mレースは16'08"、16'20"と自己ワースト記録(大学院)に終わりました。その後も力が戻らない日々が続きました。夏合宿で、「院生陸上において一番重要なのは食生活等の自己管理」とアドバイスをもらい、それを真摯に受け止めて、生活面の見直しを行いました。まず、研究を終えた後に行っていた深夜の練習をやめました。研究スケジュールをきっちり調整し、夕刻に研究室を1時間抜けて練習することにし、食事は必ず練習後とるようにしました。さらに、食事はカロリー・栄養計算をする癖をつけることにより無駄な摂取カロリーを抑えることに努めました。合宿を終えてから2ヶ月間で体重を10kg落とせ、去年と同等以上まで体調が回復していくのを感じ取れました。

しかし、陸上は甘くはありませんでした。スタートすると、すぐに体が重くなり市街地に入るころには失速してしまい、結果は67分08秒と自己記録には及ばず終わりました。少しでも体力を戻すために9月下旬まで走りこんだため、疲労が抜けなかつたことが原因の一つとして考えられます。悔しい気持ちでいっぱいです。自己ベストは出せませんでした。本大会も東大陸上部関係者の皆様、

自分を育ててくれた親、一緒に青春時代を過ごした早大陸上同好会の友、研究所の大切な友と多くの応援があり、最後まで崩れず走りきることができました。

今回、味わった悔しい気持ちを忘れず、支援・応援してくれている皆様の感謝の気持ちを胸に抱き、また頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

金尾 太郎 (M2) 1時間12分14秒 (368位)

今年は予選会の参加標準記録が上がり、5000mでは従来の17'00"00から16'30"00になりました。これは僕の自己ベストを上回る記録でした。自己ベストは8年前高校のときに出した16'34"であり、以来その記録からは遠ざかっていました。標準記録の変更を知らされたのは今年の4月終わりのことです。満足な冬季練習も積んでおらず、その状態から自己ベストを目指すのは厳しいと感じました。競技として5000mの試合に出るという気持ちにはなかなかならず、5月6月は他の院生メンバーの試合をただ見るだけでした。(生活の一部として、気分転換としてのランニングは続けていました。)そんな中、「標準記録が切れるかどうかには関係なく、試合に出て走りたい」と思えるようになったのが6月の終わりのことでした。そうして今シーズン1試合目として出場した7月初めの東海長で運良く自己ベスト・標準記録を出すことができました。

結果的に院チームは10人ちょうどでの予選会出場となり、自分がその一員として貢献できたことはもちろん嬉しいことです。7月の試合に出て本当に良かったと思っています。5月、6月当時、半ばあきらめていた僕に絶えず声をかけ、試合に出ると強制するわけでもなく、僕が競技として走りたくなるようにさりげなく仕向けて待っていてくれた院生チームのメンバーには深く感謝しています。ですが、最善を尽くしながらも出場が叶わなかったメンバーがいるのも事実です。半ばあきらめ、集合練習に参加しなかったような4、5、6月の自分を思い出すと複雑な気持ちになります。

当日は気温が高かったためスタート直後から体が良く動いてしまい、また、標準が上がり昨年に比べて下位層が減ったため前に引っ張られる形となり、やや速すぎる入りとなりました。5km以降、立川市街に出たからはじわじわとペースが落ちていく苦しい走りでした。13.5km付近で公園に入ると、速めだった入りの反動が足が一気に重くなり

ました。そこからはコースの両側から間近に聞こえる学部生・OB・OG・関係者の皆さんからの声援を頼りに一つでも順位を上げようと前に進み続けました。最後の5kmでペースが上がったのは本当に応援してくださった皆さんのおかげです。

学部を卒業して2年目となり、今年は部活の練習・試合に参加する機会が減りました。学部時代と少し距離をおいたために、今年は「学部チームあつての院チーム」ということを逆に実感した気がします。応援はもちろんのこと、出場までの手続き・補助員、などお世話になってばかりです。学部生との関わりがなかで今年特に印象に残っているのは8月の全体合宿です。院長距離は学部生の菅平合宿に便乗させてもらいました。中距離パートの練習に合流したりして、普段は一緒に練習することのないメンバーと走り多くの刺激をもらいました。合宿中は日々の研究のことを忘れ、陸上のことだけに没頭する楽しさを思い出すことが出来ました。予選会当日は学部チームを後ろから脅かすような走りがあったのですが実力不足でそれは叶いませんでした。

院チーム、学部生、OB・OGの方々のようなサポートには本当に感謝しています。そのようなサポートのもと、今年の予選会もベストを尽くすことが出来ました。ありがとうございました。

野村 圭吾 (M1) 1時間14分08秒 74'08 (384位)

練習状況と体調から72分切りが妥当な目標でしたが、入りが速すぎました。もう4度目になるというのに情けない限りです。ラップは17'35-18'32-18'48-19'11でした。ずっと一人旅だったので応援がとてもよく聞こえました。途切れることなく続く声の主を一人ひとり確認していくのが楽しかったし、何より院生も学部生と同じ様に応援していただけたことが嬉しくて嬉しくて。また走りたくなりました。体調管理に気をつけて、次は65分台を出したいと思います。応援・サポート本当にありがとうございました。

山崎 貴裕 (M1) 1時間14分25秒 (386位)

この一年、昨年故障した左足底の再発が重なり、継続した練習が積めず、3週間前に怪我が完治し、急ピッチで体を仕上げたのでの出場でした。練習の出来から3'50/kmで押していくのがやっただろうと感じ、落ち着いて入ろうと考えていました。しかし、予選会の雰囲気飲まれて3'35/kmとかなり早いペースで入ってしまいました。ペースを下げようと

後ろを見てみましたが、最後尾集団が一塊すぐ後方にいるだけで、後ろの集団に混ざってもペースがそれほど変わらないだろうと考え、そのままのペースで押していくことにしました。5km 通過は18'11で予定よりも1分も早かったですが、後方集団の筑波院の2選手に追いつかれ、同じ院チームとして簡単に負けるわけにはいかないといい、ついていきました。10km 通過は36'48と予定のペースよりかなり早い通過となり、呼吸も脚も苦しく重かったのですが、筑波院にはどうしても負けたくないという意地と沿道からの応援の力でなんとか持ちこたえてました。すると、12km 過ぎで急に楽になり、ペースをあげてみました。筑波院はここでつけなくなり、前に中村さんと野村の姿を捉えることができ、一人一人落ちてきた人を拾いながら、二人を目指しました。15km 通過は55'26でほとんどペースを落とすことなく通過し、中村さんに16km ほどで追いつき、次は野村を目指してペースをあげました。しかし、公園内の緩やかなアップダウンに苦しめられ、なかなか野村との差を詰めることができず、ややペースを落とし74'25でのゴールとなりました。予想より早くゴールできたのは筑波院との並走、沿道からの盛大な応援のおかげだと思っております。応援からは力をもらおうと同時に、こんな走りではだめだと感じることもでき、来年の予選会へのモチベーションを高めることができました。院に入って怪我続きでモチベーションが下がりつつありました。このままではダメだと思いつつも怪我のせいにして陸上に注力することができない一年でした。怪我してもできることはあるのにそれさえしない、そんな墮落した陸上生活をしている。そんな自分は嫌いです。自分のアイデンティティは走りしかないので、ラスト一年は箱根駅伝を本気で目指せるような選手になれるように練習を積んでいきたいと思えます。当日は、盛大な応援、手厚いサポートありがとうございました。

#### 加藤 拓也 (M2) 1時間14分42秒 (389位)

今までで最も悔いの残るレースになってしまいました。3km くらいから腹痛が始まり、7km くらいで治まり、ここまではそこまで悪くなく、69分台程度は出せるくらい足はしっかり動いていましたが、ここからが地獄でした。8km くらいから今度はお腹が緩くなり、足は余裕があるのにスピードが上げられなくなってしまいました。そこから

11km くらいまでは本来出したい力の8割くらいしか出せず、さらに悪化して13km くらいまでは6割くらいしか出せなくなり、そこからはもうさすがと限界で、左右を見渡しトイレを探しながら走りました。もう流し程度の走りになっていました。この頃から、もう目標はとにかく完走し、チームの記録が残ることに変わりました。15km 過ぎでやっとトイレが見つかり、急いで行きました。トイレの中では本当に頭が真っ白でした。「今までずっとこの日のために頑張っていたのに。自分を応援してくれる人のため、走れなかった人達のため、自分のできる限りの走りをするつもりだったのに。その予選会がこうなってしまうとは…。夢であってほしい。今日の朝にもう一度戻りたい」と。コースに戻ってからは、呆然としながらも、ひたすらにスピードを上げました。おそらくラスト3km が一番ラップは速かったらと思うます。前に見えた中村君を追い、抜かしたら今度は山崎君、高田君を追い、無我夢中で高田君を抜いたところでゴールでした。

去年は沿道の声援に感動し、うれしさに涙が出そうになりながらゴールを迎えられましたが、今回は何も感じられませんでした。はっきり言ってタイム、順位より何より、自分の走力の限界を出しきれず、それとは別の要因で走れなかったことがとても悔しく、そして、松本君達東大院、東工大の走れなかった人達に対し申し訳なく…。それにせつかく応援に来てくれた多くの大切な人達に、いい走りを見せたかったです。何を言っても始まりませんが、そういう予選会でした。

#### 高田 裕之 (M1) 1時間14分47秒 (390位)

今まで、観客や放送局の立場から箱根駅伝の予選会を見ていました。そして今回箱根を目指す一員として憧れの舞台に立つことができました。ここまで来るのに8年かかりました。その間思い続けたのは、箱根・インカレにチャレンジしたいということでした。

2浪で大学に入った時には、3km を15分で走れませんでした。学部時代は同好会に所属し競技を継続していましたが、物足りなさを感じる日々でした。何かを目標にしたい、でもその目標が同好会では見つからず悶々とした中で過ごしていました。大学院に入ってから気持ちが変わらず、このままチャレンジせず終わらせたくないという一心から大学院を中退し、東京大学大学院に入りました。目標がはっきりし、チャレンジできる環境になった

ことで、練習にもより身が入りベストも更新し順調でした。しかし、7月から地獄のような日々が続く、3週間で4.5kg痩せた時に予選会をいい状態で走ることにはできないと感じました。走り方を忘れ、9、10月と故障し、4日前からまともなジョグができるようになったという状態で、ゴールまでたどり着けるか不安でした。このような状況で走るとは初めてでした。

結果として74分47秒で無事ゴールすることができました。10月16日に出来る力を出し切った結果であり満足しています。今年の参加者の中で昭和記念公園を最も長い時間走りました。歩こうか止まるかと思う度に、皆様のあたたかいご声援が聞こえてきて助けられました。最後まで走り切れたのは、一緒に頑張ってきた仲間の想いと、学部生、関係者やOB・OGの皆様の日ごろからのご声援・サポートがあったからだと思います。本当にありがとうございました。今回のリベンジは来年でのみ果たすことができると思うので、これからの一年、院生・学部生とともに切磋琢磨しながら頑張ります。別人となって必ず帰ってくることを誓います。

中村 彰吾 (M2) 1時間15分09秒 (395位)

今年も皆様のご支援のおかげで箱根予選会を走らせていただきました。今回の予選会での私自身の目標は「標準切り」と「完走」でした。参加標準の17'00"00はすぐに切れるだろうと思っていたところ、標準が16'30"00に引きあがってしまい、それから9月後半まで標準切りにもがきました。夏は研究と暑さで試合に出るも散々な結果が続いてしまい、なんとかラストチャンスの日体長で標準を切ることができました。そこで9人目の内定者となり、続く加藤も驚異的な粘りで標準を切ってくれました。こうして10人がそろい、予選会のスタートラインに立てることになりました。その後は、少しでもいい走りをできるようにと思ったのですが、昨年煩った坐骨神経痛が再発しかけて1週間練習を中断してしまいました。そのため、予選会での目標をやむなく「完走」に変更して体調を整えることに専念しました。

本番の走りは、5km過ぎまでは体が動いたのですが、それ以降は練習不足がたたってペースが落ちていってしまいました。公園に入ってから7kmは、ひたすらチームとしての記録を残すため脚にムチ打ってゴールを目指しました。結果は75分08秒と、個人のタイムとしては決して良いタイムで

はありません。しかし、予選会に院チームとして出場し、依田さんを学連選抜に送るという使命には貢献できたと思っています。今期のシーズンベストである日体長の16'22"78は自己ベストからは遠い記録ではありますが。しかし、標準切りを果たした日体長では、チームの期待と責任を背負って走る緊張と喜びも感じることができました。同時にレース後、力を出し切った達成感と満足感も得ることができました。このことから陸上競技において自己ベストの更新以外にも、このような喜びがあったのだと実感できました。陸上を始めて12年目でこのようなことに気づくことができ、競技者としてまた一つ成長できたと思っています。このような素晴らしい経験ができたのは、主将としてチームを引っ張ってくれた松本を始め、院チームの仲間たち、学部チームの幹部・部員の皆さん、OB・OGの方々、そして関係者の皆様によるご支援の賜物と感謝しております。この東大陸上部での2年間、本当にありがとうございました。

月崎 竜童 (D1) 1時間19分05秒 (411位)

チーム10番手でゴールした月崎竜童(D1、工学系研究科航空宇宙工学専攻)です。記録は1時間19分05秒、411位/413人でした。昨年の予選会以降、小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還運用や、そのイオンエンジンのフライトモデルをテーマにした修士論文の執筆、5月から8月にかけてはNASAゴダードスペースフライトセンターにJAXAから派遣されるなど、競技よりも研究活動に専念する状況が続きました。また東大入学以来、陸上競技優先の為あきらめていた海外留学や長期旅行なども、この1年間は意識的に優先させました。昨年の予選会直後、イオンエンジンが故障し、それをなんとか直して「はやぶさ」が地球に帰ってこさせるといふことで、本当に競技どころではありませんでした。私自身は学生運用当番にすぎませんでしたが、「なぜ宇宙でイオンエンジンは故障したのか」と、修士論文を書きながら地上試験モデルとにらみ合っていた時期もありました。

アメリカ滞在中は毎朝30分のジョギングをするなど続けましたが、練習不足は否めません。8月上旬の帰国後も、日本での研究の遅れを取り戻すことに必死でした。そのような中で、出場が決定した9月末から練習を再開したのが実情です。4'00/kmで20kmを走れるようになったのが、1週間前であることを考えれば、周回遅れで失格にもならず、な

んとか完走できたことにホッとしています。今回は、出場者が10名ギリギリの一方で、エース・依田は直前に10000mで29'48"73をたたき出し、学連選抜が有力視されていました。一人でも欠場すれば、チーム記録が残らないばかりでなく、依田の学連選抜への可能性も潰えます。一人一人がこの状況を自覚し本番まで行動してきました。私自身は、2年前は自己ベストを出し院生チームとしても過去最高の11時間18分36秒に貢献することができました。今年はそれから12分以上遅れ全出場者で“ビリ3”、チームも過去最低記録の12時間超えという惨憺たる結果ですが、依田に希望を託して完走で来たことを嬉しく思います。

来年は最後出場となりますので、まずは16'30"00の参加標準記録を切り、冬季は相模原の宇宙科学研究所から駒場のグランドまで継続して足を運びたいと思います。

#### 4.4 試合結果

##### 第87回箱根駅伝予選会

於 自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園 (H22.10.16)

総合順位		
順位	大学名	タイム
1	拓殖大学	10時間11分39秒
2	國學院大学	10時間15分46秒
3	帝京大学	10時間16分22秒
4	中央学院大学	10時間16分40秒
5	上武大学	10時間17分49秒
6	東海大学	10時間20分10秒
7	日本大学	10時間19分26秒 (10時間23分01秒)
8	神奈川大学	10時間21分27秒 (10時間21分57秒)
9	専修大学	10時間22分46秒 (10時間23分31秒)
以上が本戦出場		
10	法政大学	10時間24分35秒 (10時間27分35秒)

11	大東文化大学	10時間25分44秒 (10時間27分59秒)
24	東京大学	11時間16分35秒 (11時間16分55秒)
34	東京大学大学院	11時間31分06秒 (12時間00分24秒)

7位以降の記録は、第89回関東インカレの成績に基づくアドバンテージタイムを差し引いた最終総合タイム。括弧内の記録はレースタイム。

個人順位		
順位	名前	タイム
東京大学		
194	宮野健司	1時間04分44秒
210	東大貴	1時間05分06秒
237	山田竜也	1時間05分36秒
261	青木佑樹	1時間06分31秒
312	渡邊駿	1時間08分34秒
319	梁瀬将史	1時間08分54秒
325	鳶田洸一	1時間09分08秒
330	高田知樹	1時間09分21秒
332	岩川純也	1時間09分23秒
336	中島圭一	1時間09分38秒
		11時間16分35秒
364	大久保翔平	1時間11分57秒
374	早川晃司	1時間12分44秒
東大院		
61	依田崇弘	1時間01分57秒
272	増田紘之	1時間06分49秒
282	北川裕一	1時間07分08秒
368	金尾太郎	1時間12分14秒
384	野村圭吾	1時間14分08秒
386	山崎貴裕	1時間14分25秒
389	加藤拓也	1時間14分42秒
390	高田裕之	1時間14分47秒
395	中村章吾	1時間15分09秒
411	月崎竜童	1時間19分05秒
		12時間00分24秒

## 5 新主将・新女子主将・新主務・新長距離チーフの言葉

### 5.1 新主将の言葉

新主将 春日慶輝

2011年度主将を務めさせていただくことになりました短距離3年の春日慶輝です。先日行われました京大戦・箱根駅伝予選会には数多くのOB・OGの皆様にお越しいただきまして、誠にありがとうございました。

今年度の対校戦で中心的に活躍した4年生の先輩方が抜ける穴は大きいですが、3年生以下には高いポテンシャルを持ちながら、力を発揮しきれていない選手が多くおりますので、来年度に向けて切磋琢磨し、満足のいく結果を残せよう頑張っております。

関東インカレでの一部昇格・箱根駅伝本戦出場・全カレ入賞など高い目標を現実可能な目標との認識の下、その目標を念頭に置きつつ、七大戦・京大戦での勝利を目指し、チーム一丸となって精進して参りますので、OB・OGの皆様の御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 5.2 新女子主将の言葉

新女子主将 鈴木恵美里

これから1年間女子主将を務めさせていただきます中距離パート3年の鈴木恵美里です。OB・OGの皆様、いつもご指導・ご支援ありがとうございます。今年度は新しく4人の女子部員を迎え、対校戦にチーム一丸となって取り組んできました。短距離3名、中長距離7名・跳躍1名・投擲1名とバランスがよく、1年生を中心に来年度に期待を持てるメンバーが揃っています。先輩方から引き継いだものを大切に、感謝の気持ちを忘れずに向上心を持って七大戦や京大戦、そしてより高い目標へと向かって女子部員一同努力を継続していきますので、今後とも女子チームをよろしくお願い致します。

### 5.3 新主務の言葉

新主務 東大貴

このたび、新しく主務に就任いたしました長距離3年の東大貴です。副務を1年間務めた中で、この東京大学陸上運動部は、OB・OGの皆様のご支援によって支えられているということを改めて実感いたしました。今後1年間、力不足ではありますが、この部を円滑に運営できるように、そして、各部員が、OB・OGの皆様に対

する感謝の気持ちを忘れず、競技や仕事で部に貢献するという姿勢を保てるように、精一杯努力していきます。

また、主務とはいえ一選手ですので、競技面でも部に貢献できるよう、関東インカレ入賞・箱根駅伝本戦出場といった高い目標を持って日々の練習に励みます。前主務の早川さんが主務を務めつつ競技でも大活躍されたので、私は長距離で歴代最速の主務を目指します。そして、チームが今よりもさらに強くなれるように、最上級生として、仲間とともにチームを引っ張っていきます。

対校戦の際にはぜひ会場まで足を運んでいただければ幸いです。今後とも、東京大学陸上運動部をよろしくお願いたします。

### 5.4 新長距離チーフの言葉

新長距離チーフ 宮野健司

これから1年間長距離パートチーフを務めさせていただきます宮野健司です。よろしくお願い致します。

今年のチーム状況を振り返ってみますと、6月の時点で5000m16分を切る選手が12人と例年以上に層が厚くなり、ここ数年の課題であった予選会における上位層と中下位層の差が縮まることが期待されました。しかし、結果は暑さの影響もあってか中位陣が振るわず、11時間16分35秒で24位となり、1年間でスピードは上がりましたがまだそのスピードを予選会に活かすことまではできなかったということが露呈されました。その反省を活かすべく、今後は各自走行距離を伸ばすことで距離に慣れて行くことに加え、例年と異なる点としてはまず10000mの強化を考えております。記録会において10000mに出場する数居は高く、例年10000mに出場する選手は少ないのですが、幸い今年からディスタンスチャレンジが我が部主催で開催されますので、まずはこの機会にパート員全員が10000mを経験するようにしていきます。そして春以降も積極的に記録会や都道府県選手権などの10000mに出場することによって対校戦5000mと予選会に向けた長い距離の走り込みを両立させていくつもりです。10000mで記録を伸ばすことができれば、箱根駅伝本選出場を狙う前段階として、各校8名の10000mの持ち記録上位20校が参加できる全日本大学駅伝の予選会にも出場可能となり、関東インカレの舞台以外にも関東の強豪校と戦う絶好の機会が与えられることとなりますが、現段階ではまだまだ厳しい(どれだけ甘く見ても8名平均30分台は必須)ので、とにかくその1歩を踏み出すことから始めていきます。

また、関東インカレといえば東(3年)がハーフマラソンの、青木(3年)が3000mSCの標準記録を既にそれ

ぞれ切っており、この2名に加え宮野(3年)、山田(3年)、渡邊駿(2年)などにも今後長距離種目の標準記録突破が期待できますので、来年度は長距離パートからも多数出場することが可能だと考えております。そして予選会では、来年こそ東大記録(10時間52分31秒)更新と学部から最低1名の学連選抜入りを果たし、OB・OGの皆様方の期待に応えられるチーム作りをしてまいりますので、今後とも変わらぬ御指導・御支援のほどよろしくお願い致します。

## 6 自己記録更新者一覧 2010.9.5~10.16

### 10/9 京大戦(太陽が丘)

100m	鈴木理香(2年)	13"33(+2.0)
200m	江間輝裕(4年)	24"05(-0.8)
200m	桜井駿(1年)	26"96(+1.5)
400mH	酒谷彰一(4年)	55"64
5000m	上西康平(1年)	18'55"66
5000mW	瀧川朗(2年)	21'55"73
5000mW	堀田樹生(1年)	23'39"08
5000mW	近藤健一(1年)	23'40"02
5000mW	井上雄介(4年)	24'55"08
ハンマー投	千葉伸宏(4年)	37m30
ハンマー投	佐々木駿(2年)	28m24
ハンマー投	今村昌平(2年)	22m47

### 10/11 秋季オープン(大井陸上競技場)

100m	増本健太郎(4年)	11"15(+0.3)
110mH	川原善紀(1年)	15"93(+2.0)
110mH	杉森康平(1年)	16"30(+2.0)

## 7 2010年度部内5傑 2010.10.16 現在

\*学年は2010/4/1時のもの

### 男子 100m

1	西田昂広(4年)	10"81(+1.8)	8.1
2	春日慶輝(3年)	10"91(+1.9)	8.29
3	増本健太郎(4年)	11"15(+0.3)	10.11
4	菊池典晃(2年)	11"27(+1.7)	8.1
5	山下修平(2年)	11"45(±0.0)	9.4

### 男子 200m

1	西田昂広(4年)	22"16(+0.1)	7.3
2	真木伸浩(2年)	22"55(+0.1)	7.3
3	増本健太郎(4年)	22"59(+1.4)	8.1
4	春日慶輝(3年)	22"67(+0.5)	7.3
5	舩島一樹(3年)	22"93(-1.1)	6.13

### 男子 400m

1	大澤渉(2年)	49"53	6.13
2	上松祐太(2年)	50"91	9.4
3	舩島一樹(3年)	50"99	7.3
4	小松侑太(3年)	51"87	8.22
5	渡邊拓也(4年)	52"52	9.4

### 男子 800m

1	渡邊拓也(4年)	1'55"98	5.30
2	園部竜也(4年)	1'59"55	5.1
3	近藤亮之(4年)	2'00"30	8.1
4	須田遊人(5年)	2'00"98	6.27
5	池田剛志(3年)	2'01"18	6.13

### 男子 1500m

1	東大貴(3年)	4'00"59	6.13
2	大内田弘太郎(2年)	4'05"99	8.1
3	池田剛志(3年)	4'06"42	5.29
4	山田竜也(3年)	4'06"83	4.17
5	渡邊拓也(4年)	4'08"27	3.25

### 男子 5000m

1	宮野健司(3年)	14'56"00	5.2
2	東大貴(3年)	15'02"49	10.9
3	青木佑樹(3年)	15'09"83	5.29
4	山田竜也(3年)	15'21"04	4.18
5	渡邊駿(2年)	15'36"18	5.30

## 男子 10000m

1	東大貴 (3年)	30'46"98	5.1
2	宮野健司 (3年)	30'51"94	5.1
3	青木佑樹 (3年)	31'42"51	5.1
4	大久保翔平 (2年)	33'16"65	5.1
5	中島圭一 (4年)	33'21"52	4.17

## 男子ハーフマラソン

1	東大貴 (3年)	1:08'20"	5.23
2	宮野健司 (3年)	1:09'06"	5.23
3	青沼和幸 (2年)	1:20'22"	4.11
4	渡邊陽大 (2年)	1:25'36"	4.11

## 男子 110mH

1	酒谷彰一 (4年)	15"11(+1.8)	9.15
2	増本健太郎 (4年)	15"31(-0.7)	8.1
3	江間輝裕 (4年)	15"87(+0.8)	8.1
4	川原善紀 (1年)	15"93(+2.0)	10.11
5	杉森康平 (1年)	16"30(+2.0)	10.11

## 男子 400mH

1	酒谷彰一 (4年)	55"64	10.9
2	上松祐太 (2年)	56"12	10.9
3	高木海平 (3年)	56"39	6.13
4	赤木裕 (4年)	56"40	8.1
5	増本健太郎 (4年)	57"03	7.17

## 男子 3000mSC

1	青木佑樹 (3年)	9'20"27	7.3
2	渡邊駿 (2年)	9'42"09	7.3
3	山田竜也 (3年)	9'54"75	7.3
4	岩川純也 (2年)	10'00"27	7.3
5	渡邊拓也 (4年)	10'07"12	4.11

## 男子 5000mW

1	早川晃司 (4年)	21'06"56	4.29
2	瀧川朗 (2年)	21'55"73	10.9
3	堀田樹生 (1年)	23'39"08	10.9
4	近藤健一 (1年)	23'40"02	10.9
5	井上雄介 (4年)	24'55"08	10.9

## 男子 10000mW

1	早川晃司 (4年)	43'57"57	3.25
2	瀧川朗 (2年)	46'23"46	3.25
3	井上雄介 (4年)	53'46"56	5.3

## 男子 走幅跳

1	西田昂広 (4年)	7m18(-0.7)	8.1
2	飯島靖成 (1年)	6m72(+0.0)	7.3
3	真木伸浩 (2年)	6m13(+0.8)	4.24
4	酒谷彰一 (4年)	6m08(+2.0)	4.24
5	八子基樹 (1年)	6m02(+1.4)	9.4

## 男子 三段跳

1	西田昂広 (4年)	14m26(+0.3)	8.1
2	廣瀬彬 (5年)	13m37(+0.4)	7.3
3	杉森康平 (1年)	12m30(+0.7)	7.3
4	沢登良馬 (1年)	12m16(-0.2)	7.3

## 男子 走高跳

1	坂本智 (4年)	1m85	8.1
2	地子智浩 (5年)	1m80	8.1
3	小松寛 (1年)	1m70	10.9
4	原湖楠 (4年)	1m55	9.4

## 男子 棒高跳

1	土居富裕 (3年)	3m60	6.13
1	原湖南 (4年)	3m60	9.4
3	松原洸也 (1年)	2m30	10.9

## 男子 砲丸投

1	佐々木駿 (2年)	10m81	6.13
2	片山卓也 (2年)	9m64	7.3
3	原湖楠 (4年)	9m63	4.24

## 男子 円盤投

1	佐々木駿 (2年)	38m63	8.1
2	片山卓也 (2年)	31m98	5.5
3	原湖楠 (4年)	29m52	4.25

## 男子 ハンマー投

1	千葉伸宏 (4年)	37m30	10.9
2	佐々木駿 (2年)	28m24	10.9
3	河本大希 (1年)	22m59	8.1
4	今村昌平 (2年)	22m47	10.9

## 男子 やり投

1	千葉伸宏 (4年)	51m51	9.4
2	山元明人 (1年)	46m43	7.3
3	原湖楠 (4年)	40m77	4.3
4	山東誉英 (2年)	39m85	8.1
5	今村昌平 (2年)	33m34	7.31

## 男子 十種競技

1	原湖楠 (4年)	4806点	4.24-25
---	----------	-------	---------

### 女子 100m

1	久保木結 (2年)	13"23(+2.0)	10.9
2	鈴木理香 (2年)	13"33(+2.0)	10.9
3	高山花子 (4年)	14"41(-1.8)	4.3

### 女子 400m

1	浜松由莉 (2年)	1'04"20	9.4
2	久保木結 (2年)	1'04"63	4.18
3	鈴木彩夏 (1年)	1'06"02	7.3
4	鈴木理香 (2年)	1'06"03	4.10
5	増田有里子 (1年)	1'08"71	9.4

### 女子 800m

1	浜松由莉 (2年)	2'22"01	8.1
2	増田有里子 (1年)	2'30"95	6.13
3	岩上佳世 (2年)	2'44"09	5.1
4	鈴木恵美里 (3年)	2'54"10	3.25

### 女子 1500m

1	浜松由莉 (2年)	5'06"61	9.4
2	杉浦奈実 (2年)	5'10"57	9.4
3	立岡美夏子 (2年)	5'18"25	4.3
4	杉本南 (1年)	5'24"79	7.3
5	鈴木恵美里 (3年)	5'30"65	4.25

### 女子 3000m

1	杉浦奈実 (2年)	11'07"70	5.1
2	鈴木恵美里 (3年)	11'13"75	7.3
3	立岡美夏子 (2年)	11'48"47	5.1
4	杉本南 (1年)	12'47"27	6.13

### 女子 100mH

1	久保木結 (2年)	15"12(-0.4)	7.3
---	-----------	-------------	-----

### 女子 走幅跳

1	高山花子 (4年)	5m13(+0.7)	8.1
2	武田有希子 (1年)	4m58(+0.5)	7.3
3	丹家里枝 (2年)	3m74(+0.3)	7.3

### 女子 走高跳

1	丹家里枝 (2年)	1m48	8.1
1	久保木結 (2年)	1m48	8.1

### 女子 砲丸投

1	武田有希子 (1年)	9m35	9.4
2	高山花子 (4年)	6m73	10.9

### 女子 円盤投

1	武田有希子 (1年)	34m70	6.13
---	------------	-------	------

### 女子 やり投

1	武田有希子 (1年)	23m05	6.13
---	------------	-------	------

## 8 主務より

主務より 5点ございます。

### 8.1 応援OB・OG紹介

9月26日(日)、千葉印西市にて行われました関東女子駅伝に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1964年卒 八島秀雄 1994年卒 工藤麻衣子 2008年卒  
山本卓典

2010年卒 坂井啓一

2010年卒 西川鋭

2010年卒 横田祥

10月9日(土)、山城総合運動公園陸上競技場(太陽が丘)にて行われました京大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1958年卒 浦野穂昌

1960年卒 笹治峻

1963年卒 井上尚男

1968年卒 湯浅味代士

1976年卒 田上静之

1983年卒 八田秀雄

1979年卒 中谷敬二

1991年卒 小野満

1994年卒 工藤麻衣子

2008年卒 小澤聡

2008年卒 関原孝之

2009年卒 梶井駿介

2009年卒 北川昂広

2009年卒 千徳恒憲

2009年卒 田中裕一郎

2010年卒 大久保渥子

2010年卒 日下桃子

2010年卒 坂井啓一

2010年卒 西川鋭

また、10月16日(土)、昭和記念公園にて行われました箱根駅伝予選会に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1957年卒 古寺博

1976年卒 田上静之

1983年卒 八田秀雄

1982年卒 中山亨

1991年卒 福重俊幸  
 1992年卒 小須田英治  
 1994年卒 工藤麻衣子  
 1997年卒 半村哲  
 2001年卒 近藤航介  
 2001年卒 新妻拓弥  
 2001年卒 中台慎二  
 2003年卒 高梨幹生  
 2004年卒 石井康雄  
 2004年卒 田坂和彦  
 2005年卒 桑原明  
 2006年卒 中原健二  
 2006年卒 村田拓哉  
 2007年卒 片岡哲朗  
 2007年卒 木村栄三  
 2008年卒 板倉祥哲  
 2008年卒 北岡祐  
 2008年卒 山本祥  
 2008年卒 山本卓典  
 2008年卒 持永新  
 2009年卒 大島淳  
 2009年卒 梶井駿介  
 2009年卒 小福田大輔  
 2009年卒 割澤高行  
 2010年卒 井出昌宏  
 2010年卒 日下桃子  
 2010年卒 杉山俊佳  
 2010年卒 山田健太郎  
 2010年卒 横田祥

ご多忙の中お越し下さいましたことに、現役部員一同、心より御礼申し上げます。

## 8.2 行事予定

- 第12回東大競技会  
11/6(土)・7(日) 駒場グラウンド
- OB・OG ゴルフコンペ  
11/14(日) 川崎国際生田緑地ゴルフ場
- 第1回ディスタンスチャレンジ  
11/28(日) 駒場グラウンド
- 倶楽部総会  
2011/3/9(水) 山上会館

## 8.3 学生幹事の交代

学生幹事の交代をお知らせいたします。

- 主将 酒谷彰一 春日慶輝
- 主務 早川晃司 東大貴
- 女子主将 高山花子 鈴木恵美里

## 8.4 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL: 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail: seishi.tanoue@toppan.co.jp 学生主務:東大貴  
 〒177-0045

東京都練馬区石神井台 7-23-8 北海寮 325号室

TEL: 090-7644-5461

E-mail: shummu@uttff.org

## 8.5 その他

・この部便りは下記 web ページでもご覧になれます。  
<http://www.uttff.org>

・部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい。

・また、現在陸上運動倶楽部のメーリングリスト「ut-tfclub」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい。

以上です。今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

主務 東大貴

## 9 編集担当より

シーズン終了に伴い、「部便り」編集担当も代替わりとなります。この部便りは LaTeX という組版ソフトを用いて作られております。当初はコマンドに慣れておらず無駄に時間を浪費していました。また、記録の収集・整序といった一般的な業務においても、1年間不手際の連続と作業の遅延が甚だしいものでした。しかし、優秀な同輩・後輩に支えられ、何とか締め切りを破ることなく仕事を終えることができました。発送終了後にタイプミスに気づくこともありましたが、OBの皆様には辛抱強く読んで頂き、どう御礼を申してよいかわかりません。今回部便り主任をさせていただいたことにより、陸上運動部は本当にたくさんの方の手によって支えられていることを実感できました。本当に、お世話になりました。

来年の部便り主任兼中距離チーフの池田をどうかよろしくお願いします。

末筆ながら、今後の陸上運動部・倶楽部の益々のご清栄を祈念致しまして、結びの挨拶とさせていただきます。

文責：部便り主任 木内久雄